

(三)軍縮条約ナルモノハ九国条約ト密接ナル関係ヲ有スルモノナル處今回滿州事件ニ対シ示シタル日本ノ態度ヨリ慮ルニ今後或ハ益々支那ニ向ツテ実力ヲ以テ臨ムニ至ルカ如キコト之ナキヤト懸念セラレ從テ米國ニ於ケル大海軍論者ノ如キハ滿州問題ヲ引合ニ「フウバー」ノ軍縮ニ対シ対抗セント企テツツアルヲ以テ其ノ中議会等ニ於テ必ス議論ノ種トナルヘシ（往電第五五八号参照）

四華府會議以後十年間ニ於ケル日米親善増進ノ勢ハ実ニ顯著ナルモノアリ其ノ惰力ニ支配セラレ今回ノ滿州事件ニ關スル米國ノ輿論ハ是迄意外ニ穩健ナリシモ齊々哈爾攻撃以後追々硬化シツツアリ現ニ有力ナル某生糸商人ノ如キ日本ニ於テ此ノ上滿州ニ對シ高压手段ヲ以テ臨ムカ如キ事アル場合ニハ商売上ノ損得ヲ離レ日本ノ生糸ヲ「ボ

イコット」スルコトト為スモ差支ナシト公言スルニ至リタル事実アリ昨今頻リニ伝ヘラレ居ル錦州攻撃ノ如キ万々一二モ実現スルコトトモナラハ目下追々染込ミツツス・ハワード」系ノ感想ヲ忌憚ナク漏ラシタルモノナル處之ニ対シテハ本使ヨリ其ノ誤解ヲ正ス為篤ト前記兩人ヲ説得シタル結果幾分諒解セシメ得タルモ國際平和ヲ提倡スル同氏ノ主義上俄ニ其ノ態度ヲ改メシムル望ナシ同氏ハ固ヨリ米國全体ノ輿論ヲ代表スルモノト云フヲ得サルモ紐育總領事發本省宛電報第一〇四号ノ次第モアリ御参考迄電報ス仏へ転電シ仏ヨリ在欧各大使へ暗送セシム在米各領事（「ホノルル」ヲ含ム）ヘ暗送セリ

3 日加ルミュー協定改訂問題

107

昭和2年1月21日 在オタワ松永(直吉)總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

ルミュー協定改訂交渉の現状および日本側対応

振り

オタワ 1月21日後発
本 省 1月22日後着

第一号

貴電第一号ニ関シ（「ルミュー」協商改定ノ件）

本問題ニ付客年六月十八日當方^{(編註)覚書}ニ對スル先方ノ回答ヲ

俟チ居ル次第ナリ先方ハ從來B・C州出身議員ヲ加ヘタル

委員会ニ依リ本件ヲ處理シタル行懸アリ且下議会休会中ニ

シテ同委員会出席議員ノ顔触モ揃ハサルヲ以テ首相ニ於テ

モ來月八日議会ノ再開ノ後ニ本問題商議ヲ進捗スル意向ニ

アラスマヤト察セラル

議会再開後右當方覺書ニ對スル先方ノ返答アルモ何時頃商議ヲ結了シ得ルヤハ商人店員入國問題等我方重要主張ニ對スル先方ノ態度ニ依リ決セラルニ付日下予想困難ナル処

大体三、四月迄ニハ結了スヘシト思ハル尤モ本問題ニ就キ当方ヨリ督促セハ勿論速ニ商議開カルヘキモ之カ督促ハ當方ニ取り有利ナラスト思考セラルニ付本省ニ於テ特ニ急速解決ヲ要スル事情ナキ限り先方回答ヲ俟ツコト致シタ

シ

編注『日本外交文書（大正一五年第一冊）』一八五文書參照。

貴電二関シ先般來首相ニ面会ヲ求メ居ルモ首相議會ニ忙殺

ルニ今後或ハ益々支那ニ向ツテ實力ヲ以テ臨ムニ至ルカ

如キコト之ナキヤト懸念セラレ從テ米國ニ於ケル大海軍

論者ノ如キハ滿州問題ヲ引合ニ「フウバー」ノ軍縮ニ対

シ対抗セント企テツツアルヲ以テ其ノ中議会等ニ於テ必

ス議論ノ種トナルヘシ（往電第五五八号参照）

第八号

オタワ 4月6日後発
本 省 4月7日前着

ルミュー協定改訂問題に關し外務次官との會見

結果報告

貴電二関シ先般來首相ニ面会ヲ求メ居ルモ首相議會ニ忙殺

セラレ未夕面会ヲ得サルニ付外務次官ニ面会シ本官今回帰

朝ノ内命ニ接シタルコトヲ告ケ話ヲ議会ト排日運動ノ関係ニ導キタルニ次官ヨリ「ルミュウ」協約改訂ノ件ヲ切出シ首相ハ本官在任中解決ヲ希望スルナラント思考スル旨及成ルヘク速ニ首相ト相談ノ上何分ノ儀申越スヘシト述ヘタリ目下首相ハ「イースター」前ニ議会ヲ閉会セントテ日夜当面ノ用務ニ鞅掌中ナルニ付本件先方ノ申越ニ接スルハ「イースター」後ナラント存ス

今議会ニ於ケル排日運動ハ裏面ニ於テハ二三排日議員ノ策動アリタルモ首相ノ制止スル處トナリタル由ニテ何等表面ニ現ハルルニ至ラス從テ政府ハ対議会関係ニ於テハ前二年ノ如ク協約改訂ヲ交渉ヲ我ニ申込ム必要ヲ見サリシ次第ニシテ當分本件解決ヲ急ク實際上ノ必要ナキモ今後ノ議会毎ニ頑強ナル排日運動ヲ予想セラルカ故首相ハ多分本官在任中ニ懸案解決ヲ希望シ来ル可シト察セラル然レト近ク解決ノ望アルヤ否ヤハ主トシテ我最後ノ提案ニ対スル先方ノ回答振ニ依ルモノナレハ右回答ヲ得ル迄ハ予想困難ナリ尤モ本日中ニハ大体ノ見込付クヘシト思考ス

~~~~~

ニ取掛リ十月一杯ニハ諸般ノ準備ヲ了シ漁夫（鮭漁者鮭漁ヲ終リ雇入レタルモノ多シ）ト共ニ出漁セサルヘカラサル次第二テ十月以後開廷ノ日ノ一日モ速ナラムコトヲ冀ヒ居リ旁々開廷期日ノ決定ハ当地本件最高幹部等ノ均シク鶴首待チ居ル処ナリ然ルニ先般 Newcomb ヨリ政府側ノ希望トシテ当地 Millard Fishing Co., ヘ case ト合併審理方伝ヘ來レリ（別紙乙号参照）同件ハ本年四月頃同社カ北方漁場ニ於テ經營スル floating cannery （我國蟹工船ノ如キ裝置ノモノナリ）ノ漁区移動經營ヲ漁業法ノ不法行為ナリトシ出先漁業官カ起訴シタルニ初マリ右ヘ当地 Magistrate Court ハ於テ審理ノ結果会社側ノ有利ニ帰シタルヲ以テ原被両造協議ノ結果ナラ stated case ヘシテ當州 Supreme Court ハ上訴シタル所更ニ之ヲ領 Supreme Court ハ refer stated case ハ別紙丙号ノ通ニ有之我方訴訟ノ目的ノ一部ト同一範囲ニ落チ来ルヘキモノナルヘキモ我方訴案ノ範囲ハ之ニ比シ遙ニ広汎ナルノシナラス先方眼目トスル所ハ主ルハナヘ Cannery 殊ニ floating cannery 經営許否ニ対スル

今議会ニ於ケル排日運動ハ裏面ニ於テハ二三排日議員ノ策動アリタルモ首相ノ制止スル処トナリタル由ニテ何等表面ニ現ハルニ至ラス從テ政府ハ対議会関係ニ於テハ前二年ノ如ク協約改訂ノ交渉ヲ我ニ申込ム必要ヲ見サリシ次第ニシテ当分本件解決ヲ急ク實際上ノ必要ナキモ今後ノ議会毎ニ頑強ナル排日運動ヲ予想セラルカ故首相ハ多分本官在任中ニ懸案解決ヲ希望シ来ル可シト察セラル然レト近ク解決ノ望アルヤ否ヤハ主トシテ我最後ノ提案ニ対スル先方ノ回答振ニ依ルモノナレハ右回答ヲ得ル迄ハ予想困難ナリ尤モ本日中ニハ大体ノ見込付クヘシト思考ス

|                          |              |
|--------------------------|--------------|
| 外務大臣男爵 田中 義一殿            | 領事 河相 達夫 (印) |
| B・C州漁業問題ニ閔スル件            |              |
| 昭和二年八月二十七日付本官発在オタワ総領事宛オタ |              |
| 函公第二〇号公信写送付              |              |
| 別添)                      |              |
| オタワ機密公第二〇号               |              |
| 昭和二年八月二十七日               |              |
| 在晩香坡                     |              |
| 領事 河相 達夫                 |              |
| 在オタワ総領事 松永 直吉殿           |              |
| B・C州漁業問題ニ閔スル件            |              |

在ヴァンクーヴァー河相(達夫)領事  
昭和2年8月27日  
田中外務大臣宛  
日系漁民訴訟問題の現状報告および審理再開  
督促方(オタワ)在オタワ總領事への依頼  
(9月14日接受)  
機密公第二三七号

往電第一八号二関シ加奈陪側一エイト・メモアール】ノ要

## 日本人種苗制限に関するナニタ假賞書の概要

本省 9月10日後着  
オタワ 9月9日後発

111 昭和2年9月9日 在オタワ松永総領事より 田中外務大臣宛(電報)

## 日本人移民制限に関するカナダ側覚書の概要

書 Aide Memoire ヲ送付シ來レリ右覚書ノ要点ハ別ニ電報シ覚書写シ郵送ス

述へ置キタル処八月二十五日本官旅行不在中二十三日付覚書 Aide Memoire ヲ送付シ来レリ右覚書ノ要点ハ別ニ電

間切迫ナリシモ約三時間二亘り懸案中ノ各事項ヲ討議シ移  
民省ヨリハ移民主任官モ参加セリ本官ハ從来ノ交渉中彼我  
ノ意見一致セサル点ニ付テハ昨年六月ノ我カ提案ノ趣旨ヲ  
主張シタルカ其ノ内商人及ヒ店員ノ入国問題ニ付テハ先方  
ハ到底我カ主張ニ同意セサル態度ナリキ本官ハ兎ニ角本件  
交渉ヲ進ムル為我最後ノ提案ニ対シ何分ノ回答ヲ待ツ旨ヲ

ラルルヤノ惧アルノミナラス訴訟費用分担ノ問題ノ如キ最モ困難トスル所ナリ右等ノ理由ニ依リ合併審理ハ好マシカラサル様存セラルル所予ネテヨリ我方ト関係ヲ有スル當市一流弁護士 Mayers 氏ノ意見モ亦全然合併審理反対ナリシヲ以テ之ヲ拒絶スルコトニ一決シ別紙丁号ノ通本月二十五日付ヲ以テ辻村幹事ヲシテ Newcomb 寄稿信セシメ置キ

チ一般製造業ト共ニ取扱ハルルコトヲ希望スルニ止マリ之  
カ管轄カ為ニ移サルルコトハ寧ロ希望セサル所ナリ将又  
Millard 社目下ノ財政状態面白カラサル風評アリ果シテ最  
終法廷タル Privy Council 迄持出ス大資力ヲ有スルヤ疑ハ  
シク且同伴ヲ引受ケタル弁護士 Williams & Manson ノ  
Manson 氏ハ例ノ排日屋タル當州検事総長 Manson 氏ニ

領海業大臣、格別に御詫び申す。州二選サムトノハ点ニ在ルモノノ如ク此ハ同件 Magistrate Court ニ於ケル口頭弁論等ニ依ルモ略窺ハルヘシ然ルニ我方立場トシテハ「キヤナ

外尤モ今後ハ合伊審理有誤シ立ムナシ場合ニ立至ハト  
スルモ一応絶対ニ拒絶シ置ク方我方立場ヲ有利ナラシムル  
モノト思考セラル

本件最近ノ成行概略右ノ通事進入就テハ費官ニ於テ New-comb 御召致相成同人御鞭撻ノ上单独審理並至急開廷日決定方可然御配慮相煩度此段申進ス

110 昭和2年9月9日 在オタワ松永總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

ルミニュー協定改訂交渉の再開

シテ合併審理ノ場合彼等ノ利益ノ為我方主張ヲ犠牲ニ供セ

本オタワ省 9月9日後発  
9月10日前着

三、加奈陀移民法第二条gニ規定スル非移民ニ該当スル者ハ其身分ニ変更無キ限り加奈陀ニ入国及滯在自由ナル事四、移民ハ左記ノ階級ニ依リ所述ノ条件ニテ入国ヲ許ス

a 農業労働者及家内使用人孰レモ加奈陀在住日本人ノ呼寄ニ係ル者ニシテ加奈陀移民官ハ事前ニ呼寄願ノ是非

b 再渡航者ハ加奈陀出発前移民官ノ証明ヲ取付ケ置ク事

c 改訂協約調印前加奈陀ニ正当ニ入国シタル者ノ妻子、

子ハ十八歳以下トシ写婚婦人ノ呼寄ハ之ヲ禁ス  
農業労働者及家内使用人ノ入国数ハ一年百二十五ヲ超過  
スヘカラス妻子入国モ亦一年百二十五ヲ超過セサル事  
五<sup>(2)</sup>  
一時的目的ヲ以テ入国スル非移民商人ノ外加奈陀政府  
ハ左記商人ノ入国ニ同意ス  
a 永久又ハ不定期滞在ノ商人国際通商ニ從事シ二千五百  
弗以上ノ資本ヲ有スル者一年十二人以下ニ限ル  
b 国際通商ニ從事シ二万弗以上ノ資本ヲ有スル者  
a、b共事業ニ定着ノ上妻子呼寄ヲ許ス  
日本政府ハ右三箇月間発給スル旅券ノ數ハ前年同期間ノ  
発給數ヲ超過セシメス  
七、一時帰國者ニシテ過渡期終了前ニ旅券ノ交付ヲ受ケ加  
奈陀政府移民官ノ再渡航証明ヲ有セサル者ハ日本領事ノ  
證明ニ依リ入國ヲ許ス  
次ニ左ノ点ニ付テハ意見未タ一致セス  
八、加奈陀出生ノ者及小供トシテ入国シタル者ニハ成長後  
妻子呼寄ヲ許スヘシトノ日本案ニハ同意シ難シ加奈陀政  
府カ今後ノ移民ニ妻子呼寄ノ權ヲ認メサル趣旨ハ原協約

ニテ妻子呼寄ノ權ハ協約締結當時在住シ再渡航スル者ニ  
限レリ当時（一九〇七年十二月十日）交渉ノ任ニ当リタ  
ル「ルミユウ」氏ノ言ニ依レハ「現ニ在住スル日本人」  
ハ「既得權」ヲ有ストアリ  
九、前記五ノaニ依リ入國シ得ル商人ノ數ハ日本案ハ二十  
ナルカ加奈陀側統計ニ依レハ商人ヲ包含スル商業階級ニ  
属スル成年男子ノ平均入國数ハ十二以下ナリ故ニ十二ハ  
現在ヨリ增加ノ余地アリ  
十<sup>(3)</sup>  
一年取引高十万弗又ハ投資額五万弗ノ商人ハ店員ヲ呼  
寄セ得ルトノ日本案ニ付テハ店員ノ數ヲ示サレス同案ハ  
経済的競争ノ盛ナル種類ノ移民ヲ減少セス却テ増加スル  
コトトナル其ノ入國方不定ナルカ故ニ店員トシテ入國シ  
タルモノ一年内ニ自ラ當業ヲ開始スレハ前雇主ヲシテ更  
ニ他ノ店員ヲ呼寄セシメ得ルノミナラス自ラ又店員ヲ呼  
寄セ得ルコトトナル最近加奈陀ハ都會移民ヨリモ農業移  
民ヲ獎励シ歐州大陸ヨリノ店員ハ特別ノ「パーミット」  
ニ依ルノ外其ノ入國ヲ認メス加奈陀ハ日本トノ通商增加  
ヲ希望スルコト歐州諸国ニ対スルト同様ナルカ店員入國  
ニ付テハ多年慣行ノ一般政策ヲ變スル能ハス若シ日本案

112 昭和2年9月14日 在オタワ松永總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

### カナダ側覚書に対する所見具申

オタワ 9月14日前發  
本省 9月15日後着

第一号

ニ同意セハ輿論ハ現協約ヨリ甚夕好マシカラスト評スル  
ナラン去レト加奈陀政府ハ出来得ル限リ日本政府ノ希望  
ニ応スル為日本商会ノ加奈陀ニ於ケル支店及ヒ加奈陀ニ  
於テ国際通商ニ從事スル相當規模ノ日本商会ハ加奈陀ニ  
於テ入手シ得サル責任アル役員ヲ一時的目的ノ為ニ「パ  
ーミット」ニ依リ呼寄セ得ルコトニ同意スヘシ終リニ近  
年加奈陀ノ一般的移民政策及ヒ日本移民ニ關スル米国、  
豪州、「ニュー・ジーランド」、南阿其ノ他太平洋諸国ノ  
立法力極メテ嚴重ナルコト並ニ西部加奈陀ニ於ケル輿論  
ハ移民禁止ノミナラス移民追放ノ運動サヘ現ハルル狀態  
ナルコトヲ考慮セラレナハ日本政府ハ加奈陀案トシテ太  
平洋諸國中日本人ノ希望ニ応スル最良ノ努力ヲ體現スル  
モノナルコトヲ諒セラルヘシト信ス又之等ノ案ハ加奈陀  
議会ニ於テ容認セラレ得ヘキ最大限度ナリ加奈陀政府ハ  
日本政府カ上述ノ案ノ趣旨及ヒ之ヲ基礎トシテ協約ヲ改  
訂スルコトニ同意セラレン事ヲ切望ス本件ニ関シ日本政  
府ヨリ意見ヲ回示セラレンコトヲ請フ  
晩香坡へ暗送セリ

（一）妻子呼寄ノ件ニ付先方ハ新協約成立前適法ニ加奈陀ニ在  
住セル者ニ限リ之ヲ認メ新協約成立後加奈陀ニ生レタル  
者及子供トシテ入國シタル者ニハ之ヲ認メスト主張ス其  
結果将来二十年モ経過スレハ妻子呼寄ハ絶無トナル然レ

ハ新移民二百五十、内労働者百二十五妻子百二十五ノ案将来妻子ヲ失ヒ労働者百二十五ノミ残ル事トナル故対案トシテ  
イ、加奈陀案ノ通妻子呼寄制限ヲ設クルニ於テハ移民総数ヲ三百トシテ妻子ト其他ニ平分スル事  
ロ、移民数ヲ二百ニ減シ妻子呼寄制限ヲ撤回セシムル事此場合移民総数二百ニ付テハ第一段ニ於テ妻子ト其他ノ分配自由ヲ主張シ同意ヲ得サレハ妻子百其他百二分配ス此分配案ニテ妻子呼寄制限ノ撤回ハ一九二五年九月二十一日先方ノ同意セルモノナリ

ハ、移民総数百五十分配自由トシ妻子呼寄制限ヲ設ケサル事此案ハ同年八月二十七日ノ加奈陀案ニ近シ等ヲ考慮シ得可ク我方将来ノ為ニハ(口)又ハ(ハ)ハ(イ)ヨリ有利ナルカ如シ

(二)<sup>(2)</sup>永久的又ハ無期限滞在ノ目的ヲ以テ渡米スル商人ハ加奈陀移民法上移民ニ属ス此ノ種商人ニシテ国際通商ニ従事シ二千五百弗以上ノ資本ヲ有スルモノ一年十二人ヲ限り入国ヲ許ストノ加奈陀案ニ對シ我方ハ二十人ヲ主張セルモ我統計ニテハ加奈陀法上移民ニ属スル商人ト非移民ニ

ヲ求メ呼寄商店ノ標準トシテ取引高又ハ資本額ヲ例示スルモ呼寄店員数ハ予想シ難シ他方米国ニ在リテハ本邦商店ノ支店以外ノ商社（移民成功者ノ經營スルモノ）ハ全然店員呼寄ヲ許サレサル由然ラハ之等店員ヲ「パーミット」ニテ入国セシメムトル加奈陀案ニ反対シ我提案ヲ固執スルモ先方ノ同意ヲ得ル事困難ナラム

(四)昨年六月ノ我提案中ニハ加奈陀既住者ニシテ国際通商ニ従事シ将来一千五百弗以上ノ資本ヲ有スルニ至リタル場合ハ(口)ノ商人同様妻子ヲ移民制限数外ニ於テ呼寄セ得ル事ヲ認メシメムトル条項有リ右ニ付先方ハ何等回答シ来ラス(口)一応此点ニ付先方ノ回答ヲ求メ我提案ニ同意ヲ得サル場合ハ昨年ノ御訓令案ノ通既住者モ二万弗以上ノ資本ヲ有スル商人ト同一状態ニ達スル者ニ限り制限数外ニ於テ妻子呼寄ヲ認ムル案ニ修正シテ更ニ提議スルカ又ハ(口)此際ハ本案又ハ修正案ヲ持出サス他日実際問題発生ノ際新入国商人ニ対スル取扱ノ趣旨ヲ援用シテ我希望ヲ達セム事ヲ計ルカ第二案中(口)ノ修正案ニテモ直ニ先方ノ同意ヲ得ルヤ不明ナルニ付全体ノ交渉ヲ促進スル為ニハ(口)案便ナラム

属スル商人（一時商用ニテ渡航スルモノ）トヲ区別セス故ニ我統計上二十人ヲ主張スル根拠薄弱ノミナラス此ノ種商人ノ渡航者ハ極メテ僅少ナラント想像セラルニ付此ノ点ハ先方提案ノ十二人ニ応スルモ差支ナシト思考ス(三)店員ニ付テハ先方ハ(口)日本商社ノ加奈陀支店及(口)加奈陀ニ於テ日本人ノ設立セル実力アル（サブスタンシアル）商社ハ特殊ノ「パーミット」ニ依リ責任アル役員ヲ呼寄セ得ルコトヲ提案セリ總テ店員入国ハ欧洲人ニ対シテモ特許主義ニ付我店員ニ付一般的ニ入国ヲ認メシムルコト困難ナラン其(口)ノ店員ハ永久的滞在ノ目的ヲ有セサルモ概シテ滞在期間定マリ居ラサル故形式上無期限滞在トナリ所謂移民ニ属スルモ彼等ノ無期限ハ実ハ一時のノ意味ナルニ付此ノ理由ヲ以テ非移民トシテ取扱ハレ度キ事ヲ重ネテ主張シ然ルヘシ又責任アル役員ト限定スルコトハ事務実習ノ為会社銀行ヨリ青年店員ヲ派遣スル場合差支アルニ付広ク在加奈陀支店ニ赴ク店員トシテ主張スル必要アルヘシ

(口)ノ店員ハ概シテ永久的ニ滞在スルモノニシテ移民ニ属ス且我提案ハ相当規模ノ商店ニ対シ店員呼寄ヲ認メム事

113 晚香坡ニ暗送セリ

昭和2年10月18日 在オタワ富井總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

オ タ ワ 10月18日後発  
本 省 10月19日後着

ルミニュー協定改訂交渉の妥結促進に関するキ  
ング首相との会談要領報告

第27号

松永總領事離任ノ挨拶ト本官着任ノ挨拶トヲ兼ネ兩人ニテ十七日「キング」首相ト会談シタル処

一、首相ハ松永總領事ニ対シ同總領事在任中「ルミニュー」協約改訂ノ調印ヲセサリシハ甚々残念ナリ若シ右調印済ナリシナランニハ「ウイニペッグ」保守党大会ニ於ケル排東洋人決議案（往電第二六号参照）提出モ無カリシナラン同案ノ提出ハB・C州保守党議員カ一票ニテモ多数ノ投票ヲ獲得セントスル政略ニ出テタルモノナルカ一度反対党大会ヲ通過シタル以上同州与党議員モ保守党トノ対抗上日本人ノ絶対排斥ヲ要求スルニ至ルヘク政府ヲ

甚タシク不利益ナル立場ニ陥ラシメタルモノナリスノ如キ協約改訂ノ最好時機ハ逸シタルモ總領事出発前ニ協約調印ノ事トナラハ年来同總領事ト交渉ノ結果成立スルニ至リタルモノト説明シ得ル利益有ルニ付甚タ唐突ナルモ總領事出発前是非協約調印ノ運ニ至ル様日本政府へ電請方取計ハレマシクヤト語レリ

松永總領事ハ日本政府ハ成ルヘク同官在任中ニ解決ヲ希望シ今春來交渉再開ヲ待チタルモ貴方ノ都合ニ依リ八月十八日ニ至リ漸ク次官ト会談ノ運ニ至リタル様ノ実情ニテ其ノ在任中ニ解決ヲ見サルハ甚タ殘念ナリ交渉ノ要項中両国政府ノ見解一致セサルハ最早商人及店員ノ入国等

二、三ノ点ニ過キサルモ同總領事出発迄ニ交渉ヲ完了スルハ事實不可能ナルヘシト答ヘタルカ

首相ハ不可能ナラハ致方ナキモ次期議会開会迄ニ協約ノ調印ヲ見サレハ政府ハ議会ニ臨ミ説明ノ途ニ窮スヘク事茲ニ至ラハ自分一人ノ力ヲ以テハ大勢ヲ阻止シ難キニ付同總領事帰國ノ上篤ト右事情ヲ日本政府へ説明シ協約成立ヲ見ル様尽力アリタシト希望セリ

一、本官ハ加奈陀最近ノ提案ニ対シテハ本官赴任當時日本

政府ニ於テ深甚ノ考慮ヲ加ヘツツアリタルヲ以テ遠カラス何分ノ回訓ニ接スヘシト思考スル處日本政府ハ同国及英帝國間ニ存セル多年ノ友情ニ鑑ミ本件ニ付テモ円満ナル解決ヲ切望シツツアリ唯茲ニ力説シ度キハ日本政府力最近顯著ナル發展ヲ見タル日加両国間貿易ニ著眼シ之ヲ将来益々助長發達セシメムト努力シツツアル点ニシテ協約改訂ニ当リ日本政府カ日加貿易ノ發達ヲ特ニ重要視シ居ル点ハ十分御考察相成度惟フニ交渉ノ迅速円満ナル終結ハ結局互讓妥協ニ存スヘシト述ヘタル處首相ハ時々首肯シテ同感ノ意ヲ表シタル後本件ノ迅速ナル解決ヲ切望スル旨力説セリ

在英大使、晚香坡へ暗送セリ

在晩香坡

領事 河相 達夫（印）  
外務大臣男爵 田中 義一殿  
B・C州漁業問題ニ関スル件  
昭和二年十月十九日付本官発オタワ總領事宛オタワ機密公  
第二六号公信写送付  
(別添)  
オタワ機密第二六号  
昭和二年十月十九日

114 昭和2年10月19日 在ヴァンクーヴァー河相領事より  
田中外務大臣宛  
機密公第二九四号  
昭和二年十月十九日  
再開方 在オタワ總領事への依頼  
(11月8日接受)

日系漁民の窮状および停滯中の訴訟問題審理

二、閏スル訴訟ニ就キ Newcomb弁護士ノ通知スル所ニ依レハ最初領司法省ニ於テハ前頭「ミラード」ノ「ケース」ト併合審理スヘキ意向ナル趣ナリシニ最近ニ至リ本訴訟ハ直接領「シュプリム・コート」ニ於テ受理スル能ハス先ツ州法廷ニテ審理ヲ要スル旨申来タリタル由ナルカ右ニ閑シ我方漁者側カ当地ニ於テ一流ト称セラル Mayers 弁護士ノ意見ヲ呈シタルニB・C州ノ法廷ニ出訴スルトセハ(一)鱈、塩鮭製造所ノ使用人問題及日本人ノ漁業投資問題ハ多分面倒ナク有利ニ解決スヘシト思ハルモ(二)漁業其ノ他ノ「ライセンス」問題ハ漁業大臣ノdiscretionニ閑スル問題トシテ訴訟ヲ棄却セラルヘシトテ是非領「シュプリム・コート」ノ「ケース」ニスル必要アル旨ヲ述ヘタル趣ナリ然ルニ「ニューカム」弁護士ハ「ミラード」ノ「ケース」審理セラルルニ當リ之ニ参加ノ必要アリトテ我方漁者側ノ承諾ヲ求メ居ル所漁者側ニ於テハ本件主任弁護士タル Tilleyノ意見ニ依テ之ヲ決定シタル趣向ニテ同人ニ照会シ居ルモ未タ何等回答ニ接セス只幸ニシテ「ミラード」ノ「ケー」スハ明年一月迄審理ヲ延期セラレタルヲ以テ差向キ之ニ参加スルヤ否ヤノ決定ハ尙相當猶予ヲ生シタルモ併合審理

ニ反対ナル旨ヲ述へ来レル以来「チレー」ノ本件成行ニ関

スル意見更ニ判明セス漁者側ニ於テモ頗爾焦慮シ居ル狀態ニ付テハ乍御手數貴官ニ於テ同人ノ意見ヲ呈シ御通知相煩度尚ホ同人ハ本月十一日頃「オタワ」ニ出向スル旨通知アリタルニ付其ノ節或ハ貴官ニ面会シ本件ニ關シ何等意見ヲ申述ヘタル等ノコト有之ハ是亦御通知相煩度シ

我方漁者側訴訟進行ノ状況右ノ如クナルカ前顯司法大臣ノ訴訟受理拒絶（「メイヤーズ」）ノ言ニ依レハ嘗テ斯カル前例ナキ由ナリ）ト前後シB・C州選出排日代議士Neilハ自

己ノ選挙区ノ地域タル晚香坡島「トフィノ」ニ來リ其ノ選挙民ニ対シ日本漁者ハ表向白人漁者ト親和ヲ求ムルノ風ヲ示シナカラ実ハ「ライセンス」削減問題ニ就キ訴訟ヲ提起シ居レリトテ訴状ノ内容ヲ披露シ且ソ盛ニ日本人ヲ罵倒シタル所之ニ対シ其ノ席ニ在リシ一日本人ハ一々反駁ヲ加ヘタル外反対党ニ属スル或者ハ日本人ニ対スル不公平ナル差別撤廃ヲ叫ヒ多教聴衆ノ間ニ compromise 希望ノ声アリ

「ニイル」ハ之ニ対シ排斥妥協何レニテモ諸君ノ希望ニ依リ之ヲ行フヘシト述ヘタル由ナルカ其ノ後McInnessカ「ニイル」ノ意ヲ含ミ我方一漁業関係者ニ懲憲シタル妥協〔ニイル〕ノ意ヲ含ミ我方一漁業関係者ニ懲憲シタル妥協

条件ハ

一、訴訟ヲ取下クルコト  
二、右取下ノ代償トシテ

(a) 現ニ「ライセンス」ヲ有スル日系漁者ハ終生之ヲ保有シ得ルコト

(b) 帰化日本人ハ鱈漁業ヲ經營シ得ルコト

(c) 塩鮭製造所ニ一両名ノ日本人ヲ使用シ得ルコト

(d) 塩鮭製造所ニ一両名ノ日本人ヲ使用シ得ルコト

(e) 舟船ニ日本人一両名ヲ使用シ得ルコト

ニシテ所謂骨抜キノ妥協条件ナレハ到底之ニ応シ得サルコト勿論ナルモ我方漁者ハ試ミニ

一、妥協進行中訴訟ノ進捗ヲ停止スヘキニ付來年度「ライセンス」下付数ハ前年度同様トスルコト

二、帰化日本人ニ対スル「ライセンス」下付数ヲ一九二三年四割減當時ノ数ニ回復セシムルコト

三、右保証方法ヲ明ニスルコト

ナル対案ヲ示シ「マキネス」ヲシテ「ニイル」ニ当ラシタルカ「ニイル」ハ之ニ対シ一喝ヲ与ヘ顧ミサリシ趣ナリ日本漁者ニ取りテハ來年度ノ「ライセンス」下付決定ノ時

延ハ止ムナカリシコトナカラ甚好マシカラサルニ付今般ノ司法大臣ノ拒絶ヲ切懸ケニ「チレー」、「ニューカム」等ヲ督励シ停頓セル局面打開ノ為十二分ノ御賢配相煩度此段申進ス

本信写送付先 外務大臣

115 昭和3年1月26日 在ヴァンクーバー福間(豊吉)領事  
田中外務大臣宛 (電報)

B・C州議会における排日法案の提出は日加通商関係の阻害要因になるとのマックリーン

B・C州首相への申入れ

ヴァンクーバー 1月26日後発  
本 省 1月27日後着

拙信第一号及往電第二号ニ関シ  
第三号

拙信第一号及往電第二号ニ関シ

本官二十三日「ビクトリア」ニ於テ首相「マックリーン」氏ト会見ス雜談数刻ノ後本官ヨリ本日ノ來訪ハ着任挨拶ノシ此間關係漁夫ノ慰撫結束弛緩ノ防止ニ努メ來リタレトモ年々鑑札遞減等ノコトハ予定ノ通進行致居ルニ付時日ノ遅

木材ノ日本ニ於ケル需要益々増進セル時ニ當リB・C州議会ニ於ケル排日法案ノ提出ハ依然トシテ煩マサルモノナル所如斯ハ両国ノ親善及通商關係ニ対スル障礙ニシテ之ニ依リテ加奈陀ノ蒙ムル損害又渺シトセサルノ一事ナリト述ヘ

タルニ首相ハ排日法案ノ提出ハ從前ト雖時折之ヲ見タルモ両国間ノ關係ハ條約ニ依リテ定マリ居ルモノニシテ此点ハ先日モ「オタワ」ニ於テ「キング」首相トモ談話シタル所ナルニ付政府トシテハ條約ヲ基準トシテ此種法案ヲ処理シ来レル次第ナルモ「プライベイト・メンバー」ヨリ法案ノ提出自体ハ政府トシテハ之ヲ「コントロール」スルコトヲ得スト言ヘルニ付本官ハ更ニ排日法案ニ對スルB・C州政府從来ノ御孰成シハ我方ニ於テ之ヲ諒トスルモ此種法案ノ提出ハ提出者ノ何人タルヲ問ハス其自体カ既ニ一ノ侵害タルコトヲ篤ト含ミ置カレ度尚又向後トモ此点ニ關シ何分ノ御尽力ヲ頼ムト申出タルニ首相ハ承知セリト答ヘタリ御含ミ迄

尚今期議会ニ於ケル「キングス・スピーチ」中ニハ我方ニ特別ノ關係ヲ有スル事項無シ  
「オタワ」へ暗送セリ

116

昭和3年1月27日

田中外務大臣より  
在オタワ富井總領事宛（電報）

### カナダ移民制限に対する交渉方針および開始方

訓令

付記 昭和三年一月二三日付田中外務大臣より田中内閣總理大臣宛請議

カナダ移民制限に対する交渉方針

本省 1月27日 発

第五号

往電第四号ニ関シ

一月二十七日閣議ニ於テ我方対案要領右往電ノ通決定シタルニ付貴官ハ左記ノ趣旨ニ依リ可然交渉アリタク其ノ成行ハ隨時電報アリタシ

一、今回ノ対案ニ於テ交渉ノ内容及形式ヲ変更シタルハ從來ノ経過及現下ニ於ケル我方ノ立場等篤ト考慮シ詮議ヲ重ネタル結果ナリ本件協商ノ主要事項ハ要スルニ(イ)農業労働者、家内僕婢及同伴呼寄妻子ノ数ノ制限(ロ)写真結婚婦人ノ渡航禁止(ハ)妻子同伴呼寄資格ノ制限ナル處此等ノ

事項ニ關シ我政府ノ行政的自制方針トシテ大正十二年八月機密第二〇号太田總領事來信付属移民大臣ニ宛タル書面ト同一又ハ類似ノ形式ニテ貴官ヨリ前記主要事項中ノ

(イ)及(ロ)ノ二点ヲ先方當局ヘ通告スルニ於テハ所謂彼我ノ希望スル制限ノ目的ハ達シ得ラルヘク先方トシテハ右我方ノ自制的措置ヲ楯ニ領議会ニ於ケル排日移民立法ヲ阻止シ得ルコト協約ヲ締結シタルト其効果ニ於テ何等差異ナカルヘシト思考セラル而シテ從來ノ交渉中ニハ何等カノ形式ニ於テ協約様ノモノヲ成立セシメントスル或種ノ合意アリタルモ協約又ハ類似ノ形式トスル時ハ我ニ於テ枢密院其他トノ面倒ナル關係ヲ生シ成立ニハ相當長時日ヲ要スルノミナラス從來類似ノ事項ニ付加奈陀及米國トノ關係ニ於テ我政府カ伝統的ニ執り來レル自制的措置ヲ現内閣ニ至ツテ棄テ一種ノ屈辱的國際約束ヲ締結セリトノ批難ヲ免ル能ハス從テ我政府ノ立場トシテハ此際実際的ニ便利ナル方法アルニ之ヲ排シテ殊更ニ六ヶ敷キ協商又ハ協約ノ形式ヲ採ル能ハサル義ナルヲ以テ前記ノ如キ通告ニ依リ本件從來ノ交渉ヲ終局シ度キ所存ナリ

シ

三、前記以外ノ事項ニシテ從來彼我ノ間ニ商議シ來リタル事項ハ概シテ加奈陀移民法規適用上ノ手続ニアラサレハ數二百既住者タル制限ヲ廢シ数ヲ分配セサル（已ムヲ得サレハ分配ス）案、第二段トシテ(ハ)總數百五十既住制限ヲ廢シ数ヲ分配セサル案ニツキ先方ノ同意ヲ得ル様可然御交渉アリ度シ右(ロ)ノ数ヲ分配スル案及(ハ)案ハ先ニ加奈陀側ヨリ提案アリタルモノニテ結局先方ノ提案ニ譲歩スルモノナルニ付交渉ノ際ハ此点充分注意ヲ喚起セラレ度

ルルニ付此際其商議ヲ打切り法規上及實際上本邦人ニ對シ差別的待遇ヲ与ヘサルヲ条件トシ一般的加奈陀移民法規ノ適用ニ譲ルコト致シタク（別電第六号<sup>(省略)</sup>説明参照）右ハ主要事項ノ実行ヲ速ニシ以テ排日立法阻止ヲ試ミム

トスル趣旨ナルノミナラス本邦人ノ入國ニツキ差別的待遇ヲ受ケサル限り一般的加奈陀移民法規ノ適用ヲ受クルハ加奈陀ノ日英通商條約加入ノ際ノ交換公文ノ趣旨ニモ叶ヒ極メテ正当ナリトノ観念ニ出ツルモノナルニ付右我方ノ公正ナル態度ハ適宜先方ニ対シ説明ノ上前記主要事項ノ通告案ヲ支持セラレ度シ尤モ加奈陀ノ一般法規ト称スルモP・C一二〇一（元ハ二六四二）ノ規則ハ事實上本邦人ノ加奈陀入國ニ對シ差別的待遇トナルモノナルヲ以テ承認シ難シ右ニ閑シテハ大正二年ノ頃彼我交渉ノ問題トナリ遂ニ一九一四年一月十日付移民副總監「ロバ」

トソン」ヨリ矢田總領事宛ノ書面（同年一月機密第一号）矢田總領事來信参照）トナリ其後度々右書面ノ趣旨ノ確認ヲ求メ一九一九年七月三日付古谷總領事宛移民次官補「スコット」ノ書面（同年八月機密第八号古谷總領事來信参照）トナリタルモノナルニ付前記通告案決定ノ際ハ

ルルニ形式ニテ同一趣旨ヲ確認セシメ度シ

四、右一ノ通告ハ我方トシテハ文書ヲ其ママ公表スルコトハ可成避ケ度キモ先方ニ於テ必要ニ応シ適當ノ時機ニ公示スルコトハ差支ナシ

五、(1)制限実施ノ時期及(2)過渡期間ノ移民ノ制限数ニ就テハ客年貴電第一九号ノ六ノ趣旨ニ依リ(1)ハ前記一ノ通告後三ヶ月トシ(2)ハ右三ヶ月間ノ發給旅券数ハ前年同期間ノ發給數ヲ超エサルコトトシ前記一ノ通告ノ外ニ口頭又ハ書面（先方ニテ強テ主張スル場合ハ）ヲ以テ先方ニ申入レオクコト致タシ

本電及往電第四号ハ別電ト共ニ晚香坡ヘ又貴電第一八号以後本件ニ閑スル貴電ト共ニ在英大使ヘ暗送アリタシ

#### （付 記）

昭和三年一月二十二日

外務大臣男爵 田中 義一

内閣總理大臣男爵 田中 義一

加奈陀トノ移民問題交渉ニ閑シ請議ノ件

一、帝國政府ハ明治四十年加奈陀労働大臣「ルミュウ」

トノ間ニ加奈陀ニ渡航スヘキ本邦移民数ヲ自制的ニ一年四百名トスルコトニ一種ノ紳士協約ヲ締結シ以テ同国ニ於ケル排日移民法ノ制定ヲ阻止シ居リタルモ同国ニ於ケル形勢ノ変化ニ応シ大正十二年右渡航制限数ヲ百五十名ニ減少シタル處右百五十名中ニハ加奈陀在留本邦移民ノ呼寄ニ係ル妻子ノ渡航数（年々約四、五百名）ヲ含マサル為メ同国内ニテ更ニ問題ヲ生シ米國ト同様ニ日本移民ノ絶対入國禁止ヲ主張スル議論旺ンニ行ハルルコトトナリタルニ鑑ミ加奈陀總理大臣ノ提議ニ基キ大正十四年四月以来在「オタワ」松永總領事ヲシテ同國政府當局トノ間ニ現在以上ノ制限方ニ就キ交渉セシメ居リタリ然ルニ加奈陀側ノ要求ハ呼寄妻子ヲ含メ一年百五十名ニ本邦ヨリノ渡航移民数ヲ制限スルノ主張ヲ骨子トスルモノニシテ其他写真結婚婦人ノ渡航禁止再渡航本邦移民ニ閑連スル諸手続ノ問題商人学生旅行者等ノ入國問題等種々ノ事項ニ閑連シ彼我ノ意見完全ナル合致ヲ見スシテ今日ニ至レリ

三、今ヤ加奈陀ハ我移民ノ在住スルモノ現在約二万人ニ達シ米國及「ブラジル」ニ次ク重要ナル地方ナルカ一度同國ニ於テ米國ト同様ナル日本移民絶対入國禁止ノ法律制定セラルルニ於テハ全世界ニ於ケル我移民ニ對スル排斥氣分更ニ強ク釀成セラルルノ虞甚タ大ナリ而シテ我國ト

二、加奈陀ニ於ケル日本人排斥ノ氣勢ハ同國太平洋沿岸ニ於ケル排日氣運旺盛ヲ加フル為メ近年益々同國ニ於ケル

シテハ同国ニ対シ今後多数ノ移民ヲ送出スノ意思ナキノミナラス同国ニ於ケル排日ノ氣運ハ一種ノ大勢ナルヲ以テ此際ノ讓歩制限ハ一時ヲ糊塗スルニ不適從テ大勢ノ赴ク所ニ任スヲ寧口賢明ノ策ナリトスル議論ナキニアラサルモ我国トシテハ茲數年間ニテモ此大勢ヲ阻止スルノ途アリトセハ可能ノ程度ニ於テ其方策ヲ執リ仮令茲ニ、三年ニテモ現状ト余り異ナラサル事態ヲ残シオクコトハ畢竟現下ニ於ケル帝国ノ立場上極メテ有利且適當ノ措置ナリト思考セラル殊ニ過去三年ニ亘ル本邦移民制限ニ閣スル交渉ニ際シ現加奈陀政府ハ終始一貫日本ニ対スル好意ヲ表示シ同國總理大臣ハ今尚本問題ノ円満迅速ナル解決ニ苦心シツツアルヲ以テ若シ交渉此儘頓挫シ其ノ結果排日法制定セラルニ至ラハ交渉頓挫ノ責ハ自ラ帝国政府之ヲ負担セサルヘカラサル苦境ニ陥リ立法後ニ於ケル抗議提出ノ理由ヲ著シク薄弱ナラシムルノミナラス幾回抗議ヲ繰返スモ結局我目的ヲ達シ得サルコトハ往年米国ニ於ケル本邦移民排斥法制定當時ノ実例ニ見ルモ明白ニシテ事茲ニ至ラハ本件ノ円満ナル解決ニ費セル我多年ノ努力ハ一朝ニシテ水泡ニ帰シ日加親善關係延テハ日英友好

シテハ同國ニ対シ今後多数ノ移民ヲ送出スノ意思ナキノミナラス同国ニ於ケル排日ノ氣運ハ一種ノ大勢ナルヲ以テ此際ノ讓歩制限ハ一時ヲ糊塗スルニ不適從テ大勢ノ赴ク所ニ任スヲ寧口賢明ノ策ナリトスル議論ナキニアラサルモ我国トシテハ茲數年間ニテモ此大勢ヲ阻止スルノ途アリトセハ可能ノ程度ニ於テ其方策ヲ執リ仮令茲ニ、三年ニテモ現状ト余り異ナラサル事態ヲ残シオクコトハ畢竟現下ニ於ケル帝国ノ立場上極メテ有利且適當ノ措置ナリト思考セラル殊ニ過去三年ニ亘ル本邦移民制限ニ閣スル交渉ニ際シ現加奈陀政府ハ終始一貫日本ニ対スル好意ヲ表示シ同國總理大臣ハ今尚本問題ノ円満迅速ナル解決ニ苦心シツツアルヲ以テ若シ交渉此儘頓挫シ其ノ結果排日法制定セラルニ至ラハ交渉頓挫ノ責ハ自ラ帝国政府之ヲ負担セサルヘカラサル苦境ニ陥リ立法後ニ於ケル抗議提出ノ理由ヲ著シク薄弱ナラシムルノミナラス幾回抗議ヲ繰返スモ結局我目的ヲ達シ得サルコトハ往年米国ニ於ケル本邦移民排斥法制定當時ノ実例ニ見ルモ明白ニシテ事茲ニ至ラハ本件ノ円満ナル解決ニ費セル我多年ノ努力ハ一朝ニシテ水泡ニ帰シ日加親善關係延テハ日英友好

四、依テ此際ノ対策トシテハ大要左ノ通方針ヲ決定シ以テ排日立法阻止ヲ試ムルコトト致度シ

(一)帝国政府トシテハ今後ニ於ケル本邦移民ノ加奈陀渡航數ヲ呼寄妻子ヲモ含メ總數二百名(若シ不得已ハ百五十名)トスルコト

(二)加奈陀側ニテハ新タル入国移民ノ妻子呼寄ヲ禁止シ度キ意向ナルモ人道上ノ見地ヨリ妻帯及ヒ妻子ト同棲ノ自由ヲ新渡航者ニ否認スルハ同意シ難キコト

(三)加奈陀側ノ希望スル本邦写真結婚婦人ノ渡航禁止ハ移民制限ノ趣旨ニ基キ已ムヲ得サルモノトシテ承認スルコト

(四)前記ノ三点ハ本件交渉ノ核心ニシテ其他從来彼我ノ間ニ商議シ來リタル事項ハ要スルニ加奈陀移民法規適用上ノ手続ニ非サレハ今日ノ處我国ニトリ余り實益無キ事項ト認メラルニツキ此際ハ前記核心事項ニ閣スル彼我ノ交渉ヲ取纏メテ商議ヲ打切り其他ハ法規上及ヒ實際上本邦人ニ対シ差別的待遇ヲ与ヘサルヲ条件トシテ一般的の加奈陀移民法規ノ適用ニ譲ルコト

#### (五)以上四項ノ趣旨ヲ以テ至急在「オタワ」帝国總領事ニ電訓シ加奈陀當局トノ間ニ必要ノ措置ヲ講セシムルコト

#### の変更事情等カナダ側に説明

オタワ 2月3日後発  
本省 2月4日後着

貴電第五号ニ関シ  
第八号

尚本問題ニ閣スル加奈陀當局トノ取極ノ形式ハ明治四十年ノ最初ノ協定以來我政府ノ行政的自制方針ニ基ク一種ノ紳士協約タル歴史アルノミナラス之ヲ協約若ハ之ニ類似ノ形式ト為スニ於テハ國內法トノ關係モアリ且ツ到底切迫セル今日ノ事態ニ適應シ難キニツキ大正十二年第二次制限ノ當時在「オタワ」帝国總領事ヲシテ同國當局ニ対スル一方的声明ノ形式ヲ用ヒタル先例ニ倣ヒ前記核心事項ニ就キ彼我ノ合意成立ノ場合ハ協約類似ノ形式ヲ執ラス單純ナル帝國政府ノ自制的方針トシテ一方的声明ノ形式ヲ採ルコトト致度シ

右請議ス

編注 本請議は昭和3年1月27日閣議決定された。

~~~~~

117 昭和3年2月3日 在オタワ富井總領事より
田中外務大臣宛(電報)

ルミュー協定改訂問題に関する日本側交渉方針

関係ノ上ニモ支障ヲ來タスナキヤヲ恐ルル次第ナリ
一、依テ此際ノ対策トシテハ大要左ノ通方針ヲ決定シ以テ排日立法阻止ヲ試ムルコトト致度シ

(一)帝国政府トシテハ今後ニ於ケル本邦移民ノ加奈陀渡航數ヲ呼寄妻子ヲモ含メ總數二百名(若シ不得已ハ百五十名)トスルコト

(二)加奈陀側ニテハ新タル入国移民ノ妻子呼寄ヲ禁止シ度キ意向ナルモ人道上ノ見地ヨリ妻帯及ヒ妻子ト同棲ノ自由ヲ新渡航者ニ否認スルハ同意シ難キコト

(三)加奈陀側ノ希望スル本邦写真結婚婦人ノ渡航禁止ハ移民制限ノ趣旨ニ基キ已ムヲ得サルモノトシテ承認スルコト

(四)前記ノ三点ハ本件交渉ノ核心ニシテ其他從来彼我ノ間ニ商議シ來リタル事項ハ要スルニ加奈陀移民法規適用上ノ手續ニ非サレハ今日ノ處我国ニトリ余り實益無キ事項ト認メラルニツキ此際ハ前記核心事項ニ閣スル彼我ノ交渉ヲ取纏メテ商議ヲ打切り其他ハ法規上及ヒ實際上本邦人ニ対シ差別的待遇ヲ与ヘサルヲ条件トシテ一般的の加奈陀移民法規ノ適用ニ譲ルコト

四、依テ此際ノ対策トシテハ大要左ノ通方針ヲ決定シ以テ排日立法阻止ヲ試ムルコトト致度シ

(一)帝国政府トシテハ今後ニ於ケル本邦移民ノ加奈陀渡航數ヲ呼寄妻子ヲモ含メ總數二百名(若シ不得已ハ百五十名)トスルコト

(二)加奈陀側ニテハ新タル入国移民ノ妻子呼寄ヲ禁止シ度キ意向ナルモ人道上ノ見地ヨリ妻帯及ヒ妻子ト同棲ノ自由ヲ新渡航者ニ否認スルハ同意シ難キコト

(三)加奈陀側ノ希望スル本邦写真結婚婦人ノ渡航禁止ハ移民制限ノ趣旨ニ基キ已ムヲ得サルモノトシテ承認スルコト

(四)前記ノ三点ハ本件交渉ノ核心ニシテ其他從来彼我ノ間ニ商議シ來リタル事項ハ要スルニ加奈陀移民法規適用上ノ手續ニ非サレハ今日ノ處我国ニトリ余り實益無キ事項ト認メラルニツキ此際ハ前記核心事項ニ閣スル彼我ノ交渉ヲ取纏メテ商議ヲ打切り其他ハ法規上及ヒ實際上本邦人ニ対シ差別的待遇ヲ与ヘサルヲ条件トシテ一般的の加奈陀移民法規ノ適用ニ譲ルコト

関係ノ上ニモ支障ヲ來タスナキヤヲ恐ルル次第ナリ
一、依テ此際ノ対策トシテハ大要左ノ通方針ヲ決定シ以テ排日立法阻止ヲ試ムルコトト致度シ

(一)帝国政府トシテハ今後ニ於ケル本邦移民ノ加奈陀渡航數ヲ呼寄妻子ヲモ含メ總數二百名(若シ不得已ハ百五十名)トスルコト

(二)加奈陀側ニテハ新タル入国移民ノ妻子呼寄ヲ禁止シ度キ意向ナルモ人道上ノ見地ヨリ妻帯及ヒ妻子ト同棲ノ自由ヲ新渡航者ニ否認スルハ同意シ難キコト

(三)加奈陀側ノ希望スル本邦写真結婚婦人ノ渡航禁止ハ移民制限ノ趣旨ニ基キ已ムヲ得サルモノトシテ承認スルコト

(四)前記ノ三点ハ本件交渉ノ核心ニシテ其他從来彼我ノ間ニ商議シ來リタル事項ハ要スルニ加奈陀移民法規適用上ノ手續ニ非サレハ今日ノ處我国ニトリ余り實益無キ事項ト認メラルニツキ此際ハ前記核心事項ニ閣スル彼我ノ交渉ヲ取纏メテ商議ヲ打切り其他ハ法規上及ヒ實際上本邦人ニ対シ差別的待遇ヲ与ヘサルヲ条件トシテ一般的の加奈陀移民法規ノ適用ニ譲ルコト

サル事ヲ希望スル旨述へ更ニ日加公使交換ノ諒解成立セ
ル此ノ際公使赴任前両国ニ横ハル不愉快ナル問題ヲ解決

シ置ク事誠ニ願ハシキ次第ナル趣ヲ述へ右覚書ヲ交付セ
リ

118 昭和3年4月6日 在オタワ富井總領事より
別電 昭和3年4月6日付在オタワ富井總領事より
田中外務大臣宛第一九号

カナダ側回答についてキング首相との会談要領 報告

一、同次官ハ覚書ヲ一読シタル後成程今回ノ提案ハ different angle ヲリ問題ニ「アプローチ」サレタル結果從

来ノ交渉ノ内容形式ト可成リ相違セリ今直ニ何等見解ヲ

述へ難キモ覚書及ヒ本日ノ会見ノ模様ハ之ヲ詳細「キン

グ」首相ニ報告スヘシト語レリ

三、依テ本官ハ「パーソナル・タッチ」ナク唯書面ノミヲ

交換スル時ハ又互ノ意志疏通ニ充分ナラサル處アリ徒ニ

交渉ヲ長引カス惧アルニ付今回我提案ニ関シテモ加奈陀

側ノ腹案成リタル時ハ其ノ対案提出ニ先タチ首次官及

ヒ本官三人ノ間ニ篤ト懇談ヲ遂ケル様致シタキ旨申出テ

タル處次官ハ右ハ首相ニ於テモ懇望セル處ナルヲ以テ是

非右様取計フヘシト答ヘタリ覚書郵送セリ

本電英ニ暗送シ覚書写英ニ郵送セリ

第一八号 往電第八号二関シ

客月末日「キング」首相ノ求ニ応シ同首相ト懇談セリ本官ハ首相ニ對シ我方提案ノ趣旨ヲ敷衍力説シ極力之カ貫徹ニ努メタル後先方ノ対案草稿ニ付予メ外務次官ト協議シ之ヲ成可ク我政府ノ受諾シ得ヘキ形ニ作り上ケタルカ本月五日夜半同次官ヨリ大要別電第一九号ノ通先方ノ対案送付シ越セリ同案説明左ノ通（番号ハ別電ノ番号ヲ引用セリ）

(一)、(二)及(三)ハ首相カ本官トノ会談ニ於テ縷述シタルモノナルカ右ニ對シ本官ハ会談然ル可ク應対シ置ケリ

四、首相ハ妻子呼寄同伴資格ニ付從來通入国時期ヲ付スヘキ事ヲ固執シタルモ右ニ對シ本官ハ我提案ヲ詳細説明シ首相ノ再考ヲ促セリ其ノ結果首相ハ妥協案トシテ四ノ対案ヲ提出シ當國輿論ノ惧ルルハ多數婦人ノ入国ナルニ付女子入国数七十五人ヲ超エサル事ト致シタク尤此ノ点ハ発表セスト付言セリ

之ニ對シ本官ハ入国数二百分配自由ヲ固執スルト同時ニ婦人ノ入国数ニ制限ヲ付スルハ排日議員ノ質問ニ備フル為ナリト推測セラルル処果シテ然ラハ発表セサルモ事実漏洩スル事免レサルヘシト述ヘタリ首相ハ之ニ對シテ微笑ヲ洩シ前記説明ヲ繰返セリ惟フニ婦人入国数ノ制限ハ先方トシテ尤ノ主張ニ有之又我方ヨリ見ル時ハ体面上聊カ面白カラサル嫌アルモ実質上左シタル苦痛ナク此ノ点諒解世上ニ洩ルルトモ差支ヘナカルヘシ

(五)a 声明中ニ（移民）タル店員ヲ包含セサルハ(b)ノ説明ヲ参照セラレタシ

b 加奈陀官憲ニ依ル移民ノ「コントロール」ハB・C州議員ノ主張スル所（往電第一五号「ニール」演説参照）ニシテ先方カ之ニ関シ「ステートメント」ヲ出サント主張スル

ハ尤モト云フ可ク我方トシテモ強テ之ニ反対スル理由乏シカルヘシ右「ステートメント」中本邦人ニ差別的待遇ヲ与ヘサル条件ヲ付スル点ニ付テハ(八)参照アリタク先方カ此ノ条件ヲ「ステートメント」ニ記入スルヲ好マサルハ排日議員ノ反対ヲ憂慮シタルモノナリ

(七)店員ノ入国制限及非移民タル店員ノ当國滞在年数制限ハ、
移民省当局ノ意見ニ依リ挿入セラレタルモノナリ先方ノ原案ニハ滯在年数ヲ一年トシテ之ヲ「パームット」ニ依リ更ニ一年延期シ得ル様記載シアリタルモ本官ヨリ説明ノ結果先方ヨリ五年案ヲ提出スルト同時ニ七日次官ハ「パームット」ノ更新ハ單ニ手続上ノ問題ニシテ之カ入手方ニ関シテハ何等困難無キ旨付言セリ尚移民非移民ノ区別ハ永住ノ意志ノ有無ニアリ又二十人制限ハ移民店員ト労働入国スル者（百五十人制限中ニモ入ル）モ包含スル趣旨ナル處店員ノ入国ニ對シテハ各方面ヨリ反対アリ從テ之ヲ(五)aノ声明中ニ包含スルハ困難ナル趣ナリ蓋シ非移民トシテ入国スル店員カ滯在年限ヲ制限セラルルハ加奈陀移民法ノ規定ニ基クモノト認メラル處二十人ノ制限ハ将来貿易増進ノ暁我商社ニ取り多少苦痛ヲ与フル事無キヤヲ懸念ス商店員ノ人數

及滯在期間制限更ニ店員ノ入国手続ニ関シテハ外務次官旅行出発直前ニモ有之未タ充分意見ヲ交換シタル次第ニ非サルニ付先方ノ対案ヲ多少変更セシムル事比較的容易ナリト存ス

尚非移民タル店員ノ妻子呼寄同伴ニ関シテハ何等意見ヲ交換セサリキ右ハ非移民タル資格上当然制限数以外ニ於テ呼寄セ得ルモノト思考スルモ後日ノ論争ヲ避ケル為此ノ際之ヲ確メ置ク御考ナラハ御申越ヲ請フ入国手続ハ移民ニ在テハ旅券ノ外加奈陀移民官又ハ同國公使（着任迄ハ現在領事）ノ發給スル「パーミット」ヲ以テ又非移民ニ在テハ旅券ノミヲ以テ入国シ得ル様取極メル事至当ト思考スル処之カ實際ノ運用ニ付テハ更ニ詳細諒解ヲ取付ケ置ク事必要ナリト思考スルニ付何分ノ御指示ヲ請フ

(八)移民法規ノ適用ニ関シ法規上及實際上本邦人ニ対シ差別待遇ヲ与ヘサル条件ヲ付セントスル我方ノ主張ニ対シ外務次官ハ初メ大正十五年往電第二三号(一)ノ理由ヲ繰返シ承諾セサリシカ後ニ至リ之ニ類似ノ声明ヲ覚書ニ入ルル事ニ譲歩セリ但シ之ヲ(五)b中ニ於テ声明スルハ當國ノ輿論ニ照シ好マシカラスト述ヘタリ

加奈陀側覚書要領左ノ通

一、加奈陀政府ハ本年一月三日日本總領事ヨリ提出セラレタル覺書ヲ慎重考慮シタリ而シテ移民問題ヲ速ニ且満足ニ解決セントスル日本政府ノ希望ニ対シテハ全然同感ノ意ヲ表ス

二、本問題ノ解決ハ本件交渉開始後加奈陀ニ於テ太平洋

(脱)英語国民ト同様ナル移民政策採用ノ要求即B・C州議会ノ議決及「ウヰニペッグ」保守党大会ノ決議等アリタル為益々困難トナリタルノミナラス加奈陀入国移民ニ関スル種々ナル法令ノ適用ヲ日本移民ニ免除シツツアル現行慣行ヲ維持スル事モ益々困難トナリ加奈陀政府ハ曩ニ「ルミュー」協約以来加奈陀ノ一般移民政策カ著シク制限的トナリタル事ヲ指摘シタリ一九〇七年及一九二三年日本政府ノ為シタル移民制限ハ加奈陀側ニ取り日本人ノミヲ目的トスル特別ナル制限ヲ設ケサル事ヲ意味シタルモ一般的移民制限ヨリ日本移民ヲ除外スルノ趣旨ニハ非サリキ然ルニ實際ニ於テハP・C一二〇二条ヲ日本人民ニ適用セサルカ如キ日本人除外ヲ行ヒ之カ為ニ現行協約ハ日本移民ノ制限ヲ意味セスシテ寧口現状維持ノ手段

トナレリトノ批評ヲ受クルニ至レリ

三、然レト加奈陀政府ハ出来得ヘクンハ協約ニ依リ本問題ヲ解決スルノ望マシキヲ確信シ速ニ妥結ニ達シ得ヘシト信スル協約ノ基礎ヲ個々ニ述ヘントス

四、加奈陀政府ハ妻子呼寄ノ権利ヲ将来入国スル移民ニ制限スル事ハ何等苦痛ヲ与フル事ニアラスト思考スルモ妻子呼寄ニ関シ時期ヲ設クルヨリ寧口移民ノ数ヲ制限スヘシトスル日本政府ノ提案ニ同意スルノ用意有リ而シテ農業労働者家内使用人及現在及将来適法ニ加奈陀ニ居住スル日本人ノ呼寄セル妻子ヲ含ム總テノ移民ニ対シ日本政府ノ發給スル旅券ノ最大數ヲ年百五十トシ右ノ内婦人(females)ノ數ハ右最大數ノ半數ヲ超エサル事トナラハ満足ト思考ス適法ニ入国シ現ニ住所ヲ有シ又ハ之ヲ取得セントシツツアル再渡航移民ハ右ノ數ニ含マレサルモノトス

五、(a)加奈陀政府ハ現行協約ノ修正ヲ日本政府ノ一方的声明ニ依リテ為サントスル同國政府ノ提案ニ同意ス而シテ右声明ニハ日本政府ハ農業労働者家内使用人及加奈陀ニ居住スル日本移民ノ妻子ヲ含ム移民ニ対シ年百五十以上

尚先方覚書送付書中ニハ加奈陀政府ハ取極ヲ相互主義トスルコトニ差支ナントノ字句アリ右ハ首相及次官カ數次本官ニ述ヘタル處ナルモ其ノ都度本官ハ一方カ相互主義ヲ必要トセサルニ拘ラス相互主義トスルハ日本国民ヲ欺クモノノ様思ハルル惧アルニ付我政府ハ之ヲ考慮スル事ナカルヘシト答ヘ置キタルカ先方ハ執拗ニ之ヲ繰返スニ付本官ハ申出ノ次第丈ハ日本政府ニ伝ヘ置クヘシト答ヘ置キタリ蓋シ先方カ之ヲ反覆申出ツルハ我方ノ一方的声明ニ依ルヨリモ協約ノ形ヲ選ヒ度キ底意アルモ前者ニ正面ヨリ反対スル理由ヲ求メ難キニ基クモノト察セラルル處若シ之ヲ相互的トスレハ惡例ヲ残シ将来本諒解変更ノ場合又ハ在留本邦人ノ権利制限問題ニ付先方ヨリ相互主義ニ名ヲ藉リ取極ヲ強要セラルル惧アリト思考ス

英、晚香坡ヘ暗送セリ

(別電)

オタワ 4月6日後発
本省 4月7日後着

第一九号

ノ旅券ヲ發給スルコトヲ考慮シ居ラス且写真結婚ノ慣行

ヲ熄止セントストノ趣旨ヲ記述スルニ止マルモノト了解

ス加奈陀政府ハ右声明文又ハ其ノ要領ヲ両国ノ合意シタ

ル成可ク速ナル機会ニ発表センコトヲ希望ス

(b)右声明ト同時ニ加奈陀側ニ於テハ加奈陀官憲ハ日本移

民ニ対シ他國ノ移民ト同様旅券査証及願書ノ前審査等ヲ

規定セル移民法規ヲ適用スヘシトノ趣旨ノ声明ヲ發表セ

ンコトヲ提案ス

(c)再渡航者ノ願書及前顕日本声明中ニ特記セラレタルモ

ノノ入国願書ヲ加奈陀移民官憲ニ提出スルニ当リテハ之

ニ日本領事ノ証明書ヲ添付スルコトヲ要ス

六、我方覚書第六項ト全部同様ノ趣旨ヲ記載シタル上移民

トンテ適法ニ加奈陀ニ入國シ加奈陀移民法ノ規定ニ従ヒ

住所ヲ所有シ又ハ之ヲ獲得セントシツアル者ニシテ移

民法ノ認ムル一時的目的ノ為ニ加奈陀ヲ去ル者ハ離加ニ

先チ乗船港加奈陀移民官憲ヨリ「本証明書ノ所持者ハ一

時的目的ノ為ニ日本ニ帰国セントスル者ナリ」トノ趣旨

ノ証明書ヲ受ケ加奈陀帰還ノ際ニハ右証明書ヲ同証明書

記載ノ期間内ニ提示スルコトニ拠リ入國ヲ許可ストノ趣

案ス去レト加奈陀政府ハ日本移民ニ特ニ適用スヘキ制限

法規ヲ設クル事ヲ考慮シ居ラサル事ヲ声明ス It
declares that it does not contemplate the introduction
of restrictive legislation regulations specially applicable to immigrations from Japan

尚P・C-1101一条ハ日本移民ニ適用ナシ

加奈陀政府ハ上述ノ基礎ニ依ル協約ハ将来永ク本問題ノ
満足ナル解決ヲ確保スルト同時ニ将来益々日加両国親善
関係増進ヲ齋スヘキ機関ニシテ加奈陀カ囑望セル両国間
ノ公使交換ニ対シ fitting prelude ナルヘキ事確信ス

英、晚香坡ヘ転電セリ

~~~~~

119 昭和3年4月7日 在オタワ富井総領事より 田中外務大臣宛(電報)

### ルミュー協定改訂交渉の見通し並びに意見

具申

オタワ 4月7日前發 本省 4月8日前着

旨ヲ付加シ居レリ

七、日本商社ノ加奈陀支店若クハ加奈陀ニ在ル有力ナル日

本商社ノ店員ニ閑シテハ「ルミュー」協約ハ其ノ入国ニ

関シ規定シ居ラス去レト加奈陀政府ハ國際通商ニ從事ス

ル有力ナル会社 Substantial Companies に於テ必要トシ且加奈陀ニ於テ求メ得ラレサル此ノ種店員 officials and clerks ハ毎年二十人ヲ限度トシテ普通ノ前審査又

ハ査証ニ依リ入國許可ヲ考慮スルノ用意アリ此ノ種店員ニシテ移民トシテ入國シタル場合ハ前額百五十人中ニ加

フヘキモノトス又非移民トシテ一時的目的ノ為ニ入國スル場合ニハ移民法第四条ノ規定ニ依リ滯在期間ヲ五年ニ

限り且毎年「ペーミット」ヲ更新スルコトトシ入國ヲ許スヘシ

日本ニ本店ヲ有スル商社ニ在テハ願書ハ加奈陀公使館ニ提出スヘク同公使館開設前ニ在テハ在日英國領事館ニ提出スヘシ加奈陀ニ本店ヲ有スル商社ニ在テハ加奈陀移民省ニ願書ヲ提出スヘシ

八、加奈陀政府ハ前述特別ノ諒解ニ反セサル限り加奈陀ニ入國スル總テノ日本人ニ加奈陀移民法ヲ適用スル事ヲ提

往電第一八号ニ閑シ

(一)移民問題ニ閑スル當國ノ形勢ハ先方覚書(二)ヲ以テモ窺ハ

ルル通最近益々悪化シ「キング」首相ハ今ヤB・C州總選挙ヲ前ニ同問題未決ノ為著シク難境ニ陥レルモノノ如シ蓋シ保守党「ウイニペツグ」大会決議ノ結果又B・C

州多數ノ両議員カ保守党タル關係上若シ一度政権ヲ掌握

スルニ至ラハ本問題ニ付現内閣以上強硬ノ態度ヲ執ルニ至ルヘキハ明ナルヲ以テ日本ニ好感ヲ有スル「キング」

首相在任中本問題ヲ解決シ置クコト益々必要ナリト思考セラル

(二)今回先方ノ提案ハ主要ノ点ニ於テ我方ノ申出ヲ承認シ居

ルコトニモアリ旁々店員ノ入國等一、二ノ点ニ付更ニ先

方ヲシテ讓歩セシムルコト敢テ困難ニアラスト認メラル

ルニ付テハ此ノ際此等諸点ニ付直ニ交渉ヲ再開シ速ニ本件交渉ヲ完了スルコト我ニトリ得策ナリト認メラル

(三)交渉完了ノ暁ハ領議会中又B・C州選挙前發表スヘキ諒解ハ發表シ領議会ノ賛同及B・C州輿論ノ裏書ヲ取付ケ置ク事領政府並ニ我政府双方ニ取り有利ナリト思考ス而シテ右發表ハ自由党領袖ノ対案トシテ領議会及B・C州

自由党選舉民ノ賛同ヲ得ル事比較的容易ナルベク外務次官モ本官ト面談ノ際同州ノ総選挙ハ素ヨリ接戦トナルベキモ首相ハ同州自由党員ヲシテ今回成立スヘキ諒解ヲ極力支持セシムル決意ナル趣語レリ尚同州総選挙勝敗ノ予想ニ付テハ在晩香坡領事ノ意見御聴取相成様致度シ発表

時期ニ付五月五日前ハ本邦側ニ取り面白カラスト推案スルモ其ノ以後ナラハナルベク領議会閉会前(五月月中旬ノ見込)ニスル事得策ナリト観測セラル

(四)発表文ノ形式及発表セサル諒解ノ形式(先方ノ覚書ヲ以テ満足セラル次第ナルヤ夫トモ更ニ他ノ形式ニ依ル諒解ヲ取付ケ置ク御希望ナルヤノ点)我国内法規手続上ノ関係モアルニ付詳細御指示ヲ仰キ度ク又諒解ノ英文作製ニ付テモ當方ヨリ草案ヲ送付スヘキヤ否ヤ御回示ヲ請フ

(五)本件解決ハ今ラ以テ最好時機ト證メハルルニ付テハ我方回答ナル可ク速ニ御電報アル様致度シ

在英大使、晩香坡ニ暗送セリ

~~~~~

120 昭和3年4月7日 在オタワ
在オタワ富井總領事より
田中 外務大臣宛

移民制限に関するカナダ政府覚書

(5月7日接受)

機密(公第11)九号

昭和3年4月7日

在オタワ

総領事 富井 周 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

移民制限ニ関スル加奈陀側提案送付方ノ件

住電第一八号ニ關シ本月五日「スケルトン」外務次官ヨリ交付アリタル加奈陀側提案写一部茲ニ送付ス
本信写送付先 在英大使及在晩領事

(別添)

Ottawa, April 5, 1928.

Sir,

The Prime Minister has instructed me to send you herewith a memorandum containing the views of the Canadian Government on the subject of the restriction of Japanese emigration into Canada, as set forth in the interview on March 31st on this question.

I understand that you propose to convey to your Government the Prime Minister's statement that he would be fully prepared to have the agreement concluded on a reciprocal basis.

I have the honour to be, Sir,
Your obedient servant,
(Signed) O. D. Skelton
Under-Secretary of State
for External Affairs.

Shuh Tomii Esq.,
Consul-General of Japan,
Ottawa.

Japanese Government to secure an early and satisfactory settlement of the immigration question.

2. A settlement of the general character contemplated by the Canadian Government has been rendered more difficult by the demands which have been made in Canada since the initiation of the present discussion, including the unanimous vote of the legislature of British Columbia and the resolution of the Opposition Convention in Winnipeg, for the adoption of an immigration policy more in accord with that of the other English-speaking communities on the Pacific. It has also become more difficult to uphold the present exemption of Japanese immigrants from various regulations and Orders-in-Council applying to immigration into Canada on the Pacific or on both coasts. The Canadian Government has had occasion previously to point out that in the twenty years which have elapsed since the Agreement of 1907 the general immigration policy of Canada has become much more restrictive,

and that this is one ground on which a revision of the present Agreement has appeared necessary. While the restrictions imposed by the Government of Japan on emigration of its nationals to Canada in 1907 and 1923 doubtless implied an under-taking on Canada's part not to impose special restrictions directed against Japanese alone. They did not involve the exemption of Japanese immigrants from more general restrictions. Yet exemption has in fact been accorded, as for example from the regulation of the 9th June, 1919, prohibiting the landing of immigrants of the skilled or unskilled labour class at any port in British Columbia, and the criticism is therefore made that the Agreement has become a means of maintaining rather than of restricting immigration from Japan.

3. The Canadian Government is, however, firm in its view that it is preferable to seek a solution by agreement if possible, and has the honour to indicate briefly a basis upon which it trusts that agreement may

females in this total would not exceed one-half. Returning Japanese immigrants, originally admitted legally and in possession of or acquiring Canadian domicile, would not be included in this matter.

5. It had been assumed in previous discussion that a formal agreement between the two Governments would be concluded, but the Canadian Government is prepared to concur in the proposal that alteration of the agreement should be effected by a self-imposed administrative measure of the Japanese Government, communicated through the Consul-General of Japan in Ottawa. It is understood that it is desired to confine this communication to a brief statement to the effect that the Government of Japan does not contemplate issuing passports to emigrants, including agricultural labourers, domestic servants, and wives or children of Japanese immigrants resident in Canada, in excess of 150 per annum, with a reference to the termination of the practice of sending for picture brides. The

Canadian Government would desire to make public at an early date to be agreed upon, the text or substance of this announcement or communication.

The Canadian Government on its part would propose to issue simultaneously a brief statement to the effect that in the case of immigration from Japan as from other countries, the Immigration Act and Regulations, including the provisions for viseing of passports and preinvestigation of applications, will be administered by Canadian officials.

Applications of Japanese leaving Canada and desiring to return, or applications for the entry of persons specified in the communication above referred to, should be accompanied by certificates from a Japanese consul when presented to the Canadian authorities.

6. It is understood that the restrictions above noted are to be applied commencing with the passports granted following the expiration of three months after the

date of the communication, and that the Japanese Government does not contemplate that the number granted during the three months transition period will exceed the number issued during the corresponding period of the previous year. It is further understood that Japanese lawfully admitted to Canada as immigrants and possessing or in the act of acquiring Canadian domicile as defined in the Canadian Immigration Act, and who leave Canada for temporary purposes as recognized in the said Act, will be readmitted on returning to Canada on presentation of a certificate secured before leaving Canada from the Canadian Immigration officer-in-charge at the port of embarkation establishing that the holder was returning to Japan for a temporary purpose, provided that the certificate is presented within the period prescribed therein.

It is further understood that Japanese previously lawfully admitted as immigrants to Canada, who had

been granted passports for return to Canada before the expiration of the transition period mentioned above, and who consequently do not possess certificates from the Canadian immigration authorities, will be readmitted on certificate from a Japanese consul in Canada.

218
7. With reference to the admission of officials or clerks whose services are desired by Canadian branches of Japanese firms or substantial Japanese firms in Canada, it should be noted that the 1907 Agreement did not provide for the admission of these classes, and on economic grounds particular exception is taken to their competition. The Canadian Government would, however, be prepared to consider the admission, after the usual preinvestigation or viseing, of a maximum number in any year of twenty Japanese officials and clerks of a type not available in Canada, required by substantial companies engaged in international trade.

Such officials and clerks if entering Canada as immigrants would be included within the maximum of 150 per annum previously proposed. If, on the other hand, they enter for such temporary purposes, as non-immigrants, they would be admitted for a period extending to five years, on yearly permits, in conformity with the practice always applied under Section 4 of the Immigration Act. In the case of firms with head offices in Japan, applications should be addressed to the Canadian Legation, or pending its establishment to a British Consulate in Japan, and in the case of firms with head offices in Canada they should be addressed to the Canadian Department of Immigration.

8. The Canadian Government further proposes that the Canadian Immigration Act and Regulations shall apply to all Japanese coming to Canada except in so far as such application would conflict with the specific understanding as set forth above. It declares that it

does not contemplate the introduction of restrictive legislation or regulations specially applicable to immigration from Japan. It further states that P. C. 1202, regarding the entry of skilled or unskilled labourers at British Columbia ports is not applicable to Japanese immigrants.

The Canadian Government is confident that an agreement on the above basis would ensure a satisfactory solution of the question at issue for many years to come, and provide a fitting prelude to the exchange of Ministers between the Great Empire of Japan and the Dominion, from which Canada is anticipating a still further development in close and friendly relations.

~~~~~

第一三号

貴電第一八号、第一九号、第二〇号及第二二号ニ関シ

一、我方ニ於テ一方のニ主要事項ヲ通告セムトスル趣旨ハ往電第五号ノ一ノ通り我国内法ノ関係及從来ノ我政府ノ此種問題ノ處理ニ対シ採リタル伝統的方針ニ從ヒ協約的形式ヲ避ケ行政的国内措置ヲ以テ本邦移民ノ加奈陀渡航ヲ自制スルノ方針ニ基クモノナル所今回加奈陀側カ其ノ

覚書五(a)ニ依リ右我方提案ニ同意ヲ表シタルハ我方ノ多トスル所ナリ右ニ関連シ先方ニ於テ同様国内関係ヲ顧慮シ加奈陀側覚書五(b)ノ如キ声明ヲ為サントスルコトハ事情不得已ト認メラルニ付之ニ同意スルコトトスヘシ

二、本件交渉ノ主要事項ハ往電第五号ノ一二掲クル(i)、(ii)、(iv)ノ三点ニシテ我方ニ於テハ出来得ル限り此主要事項ニ力ヲ集中スル方針ナルカ此主要事項ニ付テモ我方トシテハ已ニ難ヲ忍ヒテ極度迄讓歩シ來レル次第ナレハ現在提案ノ程度ノ我要望ハ飽迄支持シタキ所存ナリ（同電一参照）然ルニ右三点中(iv)ニ対スル先方今回ノ提案タル百五十平分案ハ我方ニ於テ折角極度迄制限ヲ甘受セント

スル誠意ヲ無視シタルモノナルノミナラス從来ノ交渉ノ経緯ヲモ度外視シタル新提案ト認メサルヲ得ス即チ二百平分案ハ一九二五年九月二十五日又百五十分配自由案ハ同年八月二十七日ヲ以テ夫々先方ヨリ已ニ承認ヲ与ヘタルモノナルニ不拘今更最近ニ於ケル加奈陀側時局ノ多少ノ変化ニ藉口シ百五十平分ト云フ如キ新提案ヲ為スハ余リニ我方ノ立場ヲ顧ミサル次第ナルヲ以テ今少シク先方提案ノ理由ヲ質シタル上我方ニ於テ到底同意シ難キコトヲ力説セラレタシ往電第五号ニ「我方訓令ノ趣旨ハ既住者制限ヲ付セサル条件ノ下ニ第一段トシテ二百分配自由ヲ主張シ到底先方ノ同意ヲ得サル場合ハ第二段トシテ二百平分ヲ主張シ（此点ニ付貴信機密公第九号付属ノ貴官作成ノ覚書ハ稍言ヒ過キノ感アリ）而モ尚先方ノ同意ナキ場合ハ第三段トシテ百五十分配自由ヲ最後ノ讓歩トセラレタキ次第ナリシニ付先方今回ノ提案ニ対スル対案トシテハ出来得ヘクンハ今一応二百分配自由ヲ主張シ若シ同意ヲ得ルノ見込ナキニ於テハ二百平分案ヲ以テ妥結ヲ見ル様極力御尽力アリタク尚万不得已場合最後ノ讓歩案トシテ百五十分配自由案ヲ提示セラルハ致方ナシト思

考ス実ハ若シ先方ニ於テ今回ノ新提案ヲ飽迄固執スル結果前記二段ノ何レカニテ協議纏マラサル場合ハ我方トシテハ更ニ閣議ノ決裁ヲ経ル必要ヲ生シ本件協議ノ前途ニ暗影ヲ投スルコトナキヤヲ恐ルル次第ナルニ付此点御含置アリタシ

三、先方覚書五(a)公表ノ件ニ關シ往電第五号四電訓ノ趣旨

ハ我方トシテハ通告文ヲ其儘公表スル意向ナキモ先方ニ於テ必要ニ応シ議会其他ニ公表スルコトニ対シテハ我方ニ於テ別ニ異議ナシトノ意味ナリシ處貴官作成覚書中ノ文句ハ右ト多少相違シ居ル為今回ノ如ク提議シ來リタルモノト察セラルルヲ以テ此点ハ我方ノ真意ヲ改メテ先方ニ了解セシメラル様措置セラレタシ

四、先方覚書七店員ノ入国数及滯在期間等ニ關スル先方提議ハ承認シ差支ナク又貴電第二二号ノ二(二)、(iii)非移民店員滯在期間ノ例外ニ付テハ先方提案通ノ諒解ヲ取付ケ置カレタシ尤モ将来日加經濟関係増進ト共ニ右ニテ不十分ナル事情生スル場合ニハ改メテ改正ヲ要求スルコト有り得ヘキ今日ノ措置トシテハ二〇人ノ制限ニテ十分ナリト認メラル只非移民店員カ妻子ヲ同伴シ得ル点ニ付テハ丙

來示ノ通り此際明確ナル同意ヲ取り付ケ置クコト必要ナリ又非移民店員中本邦ニ本店ヲ有スル著名ナル大商社例へハ三井物産、正金ノ店員及其妻子ノ閑スル限りハ往電第六号ノ(+1)ノ通り已ニ先方ニテ嘗テ諒解ヲ与ヘオル次第モアリ本邦旅券ノミニテ渡航シ得ル様今一応交渉アリタシ

五、貴電第二〇号四ニ關シ我方トシテハ往年ノ日米間紳士協約ノ例ニ倣ヒ本件ニ就テモ從来彼我ノ間ニ交換シタル覚書ヲ以テ本件諒解ノ記録ト為スコトシ今後改メテ総括的覚書ヲ交換スル等別ニ記録ヲ作ラントスル意向ナシ六、貴電第一八号末段相互主義云々ハ前記一ノ立場ニ顧ミ趣旨ニ於テモ賛成シ難シ我方ニ於テ協約ノ形式ニ依ル本件解決ヲ希望セサルコトハ往電第五号以来屢次説明ノ通りナルニ付此点十分説明ノ上先方ノ諒解ヲ求メラル様致度シ

七、貴官ハ前記諸点ニ付諒解ヲ求ムル為覚書ヲ作成提出シ先方ニ於テ之ヲ承認シタル場合ハ往電第五号一ノ我方通告文所謂主要事項(i)、(ii)、(iv)中(i)、(iv)ノ二点ヲ内容トスルモノヲ貴官ニ於テ可然作成ノ上先方ニ通告セラレ差

支ナキモ時日ノ余裕アルニ於テハ一応草案ヲ當方ニ電報ノ上承認ヲ求メラレタシ

八、尙前記諸点ノ外再渡航者其他ノ願書提出ノ際添付スヘキ日本領事ノ証明書（先方覚書五(c)）一時帰国者ノ離加ニ先チ取付クヘキ証明書（同覚書六）店員ノ入國願書ノ提出先（同覚書七後段）等ノ点ハ先方申出ヲ承認スルモノト御承知アリタシ

晚香坡領事及在英大使へ転電アリタシ

122 昭和3年5月14日 在オタワ富井總領事より  
田中外務大臣宛（電報）  
ルミュー協定改訂に関するわが方対案提出について

第三〇号  
貴電第一三号ニ関シ  
（一）御訓令ノ趣旨ニ基キ覚書ヲ作製シ十四日外務次官ニ提出シ置キタリ

（二）右覚書提出ニ当り本官ハ二百人平分案ハ我方カ譲歩シ得ル極度ニシテ先方カ之以上譲歩ヲ強ユルニ於テハ本件解決頓挫スル惧アルコトヲ指摘シ我方從來ノ妥協的態度ヲ詳述シタル上先方ノ譲歩ヲ要望シ置キタルカ次官ハ追テ首相ト相談ノ上加奈陀側ノ見解成ルヘク速ニ伝達スル様取計フヘキ旨語レリ

（四）尚貴電第一三号（三）ノ通告文発表ノ点ハ御推測通り前回我方覚書提出後直ニ之ヲ訂正シ其ノ結果先方覚書通リノ提案トナリタルモノナルカ今回ノ覚書中ニハ御来示ノ趣旨ヲ明確ニ申入レ置キタリ

在英大使、晚香坡ニ転電セリ

123 昭和3年5月15日 在オタワ富井總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

日本人移民の男女区分、資格等に関する制限案について

オタワ 5月15日後発  
本省 5月16日前着

往電第三〇号ニ関シ  
第三一号

十四日外務次官ト会談ノ際同次官ハ日本案ニ依レハ家内使用人中婦人力将来多数ニ入國シ得ル虞有ル処婦人ノ入國ニ

付テハB・C州排日議員カ嚴重ナル制限ヲ要望シ居ルノミニラス「キング」首相モ亦重要視シ居ル關係上首相ハ日本

シ先方ヨリ之ヲ提案シ來ル時ハ我方トシテハ今一應從前ノ分配案ヲ支持スル事至当ト思考スルモ之ヲ固執スル結果交渉ニ頓挫ヲ來ス虞有ル時ハ總数二百トシ制限時期撤廃分配自由ヲ主張スルト同時ニ先方ノ希望ヲモ容レ右總数中女性ハ百又ハ七十五ヲ超ヘサル事ニ同意シ此ノ点先方ニ於テ欲スルナラハ通告文ト同時ニ發表セシムル様諒解ヲ付ケ差支無キヤ

右ハ其ノ精神ヨリ見曩ニ我閣議ニ於テ決定アリタル事項ノ範囲内ニ属スル様認メラルニ付テハ本件ノ迅速ナル解決

ニ資スル為何分ノ儀予メ指示ヲ請フ

在英大使、晚香坡へ暗送セリ

（五）移民制限数等に関する加側への対応振りに  
ついて

124 昭和3年5月18日 在オタワ富井總領事宛（電報）

移民制限数等に関する加側への対応振りに

キヲ置ケルヤノ感有リ或ハ我案ニ対シ制限時期撤廃總数二百男女平分案ヲ提出スル意向ニ非スヤト思ハル節有リ若

第二〇号

本省 5月18日前發

先方ニ於テ総数二百男女平分案ヲ提出スル場合ニハ右ニ同意シ差支ナク又此ノ点往電第一八号ノ形式ニテ通告文ト同時ニ発表スルコトニ異存ナキモ女性ヲ七十五トル分配案等ニ就テハ之ヲ百五十分配自由案ト比較考量スル要モ可有之ニ付事実之カ提出ヲ見タル場合改メテ稟請セラル様致度シ

晚香坡領事及在英大使へ転電アリタシ

125 昭和3年5月22日 在オタワ富井總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

わが案に対するキング首相の対応並びに  
力ナダ側譲歩の不可能な点について

付記 昭和三年五月二二日付キング首相より在オタ  
ワ富井總領事宛覚書

わが案に対するキング首相回答

オタワ 5月22日後発  
本省 5月23日後着

第三三二号（至急）

(一)十九日首相ノ求メニ応シ首相ト会談ス首相ハ我方最近ノ覺書ニ付閻僚並ニB・C州ニ、三議員ニ詰リタル結果総数ヲ日本案ヨリ減少スルカ又ハ妻子呼寄セノ件ヲ既住者ニ制限スルニ非サレハ協約成立ハ到底見込ナキ事ヲ確メタル旨述ヘタル後日本政府ニ於テ総数二百、制限時期付、妻子ト農業労働者、家内使用人トニ平分案カ又ハ百五十人、制限時期撤廃、妻子ト農業労働者、家内使用人トニ平分案ニ同意スル意向ナキヤ右日本政府へ問合セラレ度キ旨申出テアリタリ依テ本官ハ我政府ハ本件交渉開始以来許多ノ点ニ於テ譲歩ヲ重ネ二百人案ヲ提出シタル次第ニテ右ハ曩ニ加奈陀側ヨリ提出アリタル案ニ譲ルモノニシテ其ノ内容ヨリ云フモ現在百五十人タル農業労働者、家内使用人ヲ百人トシ從来無制限ナリシ妻子ノ入国ヲ制限シ之ヲ最近數年間ニ於ケル毎年ノ入国数ヨリ一層減少シテ百人トスルモノナルヲ以テ我政府ニ取り一大苦痛ナル事ヲ指摘シ是以上ノ制限ヲ要求スルハ所謂難キヲ強ユルモノナル事ヲ力説スルト同時ニ前記首相ノ腹案ハ曩<sup>(2)</sup>ニ両国政府ノ見解一致シタル二百五十人、制限時期付

案ヨリ日本ニ取り不利ナル處其ノ後日本ハ商人入国ニ関スル主張ヲ放棄シ店員ニ付テモ出来ル丈ノ譲歩ヲ為シタルヲ以テ今回ノ二百人制限時期付加奈陀副案ニ同意シ得ル理ナク又百五十人案モ曩ニ先方ヨリ提出アリタル総数百五十人、女性半数ヲ越ヘサル案ニ比シ我ニ取り不利ナルヲ以テ之亦我政府ニ於テ同意スル理無キ事ヲ縷述シ更ニ加奈陀側ニ於テ右副案ヲ提出セラル時ハ交渉ヲ逆行セシメ自ラ商人店員等ニ関スル我方從前ノ主張ヲ復活セシムルノ惧アリ斯テハ本件解決ハ到底近キ将来ニ期待シ得サルニ付我方從來ノ妥協的態度ヲ篤ト考慮セラレ今回ハ加奈陀側ヨリ譲歩シテ本件円満ナル解決ヲ見ル様致シタキ旨力説シ先方副案提出ニ付再考ヲ求メタル處首相ハ之ヲ諒トシ更ニ閣議ニ諮リタル後会談スヘキ旨約セリ

(二)<sup>(3)</sup>二十二日首相ノ求メニ応シ会談ス首相ハ本件交渉カ既ニ三年二亘ルコトB・C州ノ選挙來月ニ迫リ且同州議会力先日過激ナル排日決議ヲ満場一致ヲ以テ通過シタルコト及移殖民省並ニ外務省ノ予算案カ近ク上程セラレ其ノ際首相ハ本件ニ関シ議会ニ於テ明確ナル答弁ヲ為ス必要ニ迫ラレ居ルコトヲ指摘シタル後閣僚及B・C州議員中ニ

日本政府ニ於テ右執レカノ案ニ同意セラル時ハ右以外ノ我方覚書（往電第三〇號）記載ノ要求全部ヲ承諾スル旨ヲ語リ若シ四、五日中ニ日本政府カ前記加奈陀提案ニ同意セサル時ハ現行協約ヲ廢シ現移民法規ヲ適用スルノ外途ナシト述ヘタリ本官ハ之ニ対シ本件ハ首相カ從来述ヘラレタル通B・C州ノ立場ヨリ見ル外加奈陀全体トシテ又英帝国ノ一部タル加奈陀ノ見地ヨリ觀察スヘキモノナル事加奈陀ハ我ニノミ讓歩ヲ強ヒ公正ニ非サル事加奈

陀建国力互譲妥協ニヨリ完成シタルニ照シ本件ニ当リテ  
モ此ノ精神ヲ充分發揮セラレタキ事日本政府ノ回答ヲ即  
刻要求シ且右回答ニ於テ加奈陀案ヲ容レサレハ移民法規  
ヲ適用スルノ外ナシトバフハ脅迫ニ等シキ事ヲ力説シ先  
方提案ノ緩和方ニカメタルニ

首相ハ本件ヲ明白ニ解決スルキ必要ニ迫ラニ居ル事首先  
トシテハ閣僚及排日議員ノ極端ナル論ヲ斥ケ出来得ル丈  
ケノ讓歩ヲ為シタル事ヲ力説シ先方提案ヲ固執スルト同  
時ニ本電<sup>(5)</sup>ノ加奈陀案ヲ包含セル覚書ヲ本官ニ手交セリ

〔前述ノ通我方対案ノ貫徹セサリンハ本官ノ力足ラサル処  
ニシテ甚々遺憾トスルモ先方ノ主張ニ対シ如何ニ理ヲ尽  
シ我方ノ立場ヲ説明スルモ先方カ實際ノ必要ニ迫ラニ其  
ノ提案ヲ固執スルニ見レハ本件最早議論ノ余地ナキ事明  
白ナリ首相カ四、五日中ニ回答ヲ迫リ且現行条約ニ代リ  
移民法規ヲ適用スル外ナシト述ベタル裏ニハ首相ノ堅キ  
決意明白ニ窺ハシテ之ヲ「アーヴ」トシテ我方ニ於テ  
対策ヲ講スルハ著シキ危険ヲ冒スモノト認メハルル処今  
先方ノ百五十人案ニ付見ルニ右ハ我方第二案（百五十人  
自由分配案）ニ比シ多少不利益ナルモ帝国政府ニ於テ我方

行政的措置ニ依リ本件解決ヲ希望セラルルナラハ結局先  
方ノ案ニ譲ルノ外途ナント思考セラル店員ノ入国ニ付テ  
ハ往電第三〇号記載ノ覚書中ニ於テ往電第一一〇号後半ノ  
諸点ヲ提案シ置キタリ

先方ニ対スル回答急ヲ要スルニ付何分ノ儀至急御回電ヲ請  
フ

英ニ転電シ晩香坡ニ暗送セニ

（付 記）

Ottawa, 22nd May, 1928.

Sir,

I have the honour to acknowledge your letter of May 14th, presenting a memorandum containing the views of the Japanese Government in regard to further restrictions of Japanese emigration to Canada.

I am directed to say that the views of the Japanese Government have been considered with care by the Government of Canada. The Government is pleased to note that agreement upon many points has been pro-

sionally attained, but regrets that the Government of Japan has not found it possible to agree to the Canadian proposals as a whole contained in my letter of April 5th.

It will be recalled that in the latter communication it was stated that the Canadian Government did not consider that any hardship would be involved in setting a time limit to the privilege of future immigrants of bringing in their wives and children, as intending immigrants would presumably not emigrate to Canada unless prepared to accept it. It was added that the Canadian Government would, however, be prepared to accept a numerical limit of 150, covering wives and children as well as immigrants of the previously specified classes, instead of a time limit.

The Government of Japan in reply suggests that a limit of 200 be set, divided equally between wives and children on one side and agricultural labourers and domestic servants on the other, as contemplated in a

proposal of the Canadian Government in 1925, and that no time limit be set to the privilege of Japanese immigrants now or hereafter resident in Canada of bringing in wives and children.

In considering this proposal the Canadian Government has had in mind the fact that in the three years which have elapsed since 1925, the problem has become more serious and public opinion in Canada is not prepared today to support a solution which might have been accepted in 1925 had it then met with the assent of the Government of Japan. As an indication of the trend of public opinion, it may be stated that since our last communication the Government of Canada has received a Minute of the Executive Council of British Columbia transmitting a vigorously expressed resolution adopted unanimously by all parties in the Legislature of British Columbia in April, requesting not merely more effective restriction but a measure of repatriation and revision of the Treaty of 1911.

The Canadian Government shares the desire of the Government of Japan to secure a speedy and mutually acceptable settlement of this question, which has now been under discussion for three years. While the Government still believes that both the limitation of numbers to 150 and the limitation of the privilege of bringing in wives and children to emigrants now resident in Canada should be included in any agreement, it has definitely reached the conclusion that it would be impossible to secure acceptance of any settlement by agreement which would not include one or other of these provisions, namely, either (1) an understanding that the number of emigrants to whom passports would be issued, including agricultural labourers and domestic servants, with such officials or clerks of international houses as may be classified as immigrants, and including also wives and children of Japanese emigrants now or hereafter resident in Canada, should not exceed 150 a year, the proportion of females not exceeding one-half, or (2) a

~~~~~  
 Under-Secretary of State
 for External Affairs.
 Shuh Tomii Esquire,
 Consul-General of Japan,
 Ottawa.

126 昭和3年5月25日 田中外務大臣より
 在オタワ富井總領事宛 (電報)
 カナダ側移民制限案に同意方最終詔令
 本 省 5月25日後発
 第111号 (件名)
 貴電第111号及第114号(閻)、
 一、我方ノ第三案(百五十八、制限時期撤廃且分配ヲ自由
 ツベル案)ハ御承知ノ通り我方最後ノ譲歩案ナル処累次
 ハ貴電ニ依レハ貴官ヨリノ右第三案ノ提示ニ先チ先方ヨ
 リ貴電第111号(丁)ノ提案ヲ為シ來リタル義ト推察セラル
 ルニ付貴官ハ此際右先方ノ提案ニ対シテハ前記第三案ヲ
 提示シ左記諸点々今一応先方ニ篤ト説明シ其注意ヲ喚起
 ザラン該案ニ付先方ノ同意ヲ得ル様極力努メラシタシ

provision that the figure should be set at 200, of whom not more than half would be wives and children of Japanese emigrants now resident in Canada, and the remainder agricultural labourers and domestic servants and officials and clerks as previously defined, it being understood that the proportion of females in the latter group would not exceed the average for the past five years.

On acceptance of either of these alternative proposals by the Government of Japan, the Canadian Government would be prepared to accept definitely all other points in the proposed arrangement summarized in the Japanese memorandum of May 14th.

As you are aware, the session of parliament will terminate in a few days, and the Prime Minister will require to make a statement before it ends.

I have the honour to be, Sir,
 Your obedient servant,
 (Signed) O. D. Skelton

(イ)抑モ本件交渉両国政府ノ譲歩ハ相互的ナルコトヲ以テ
 其根本的精神ニハテ開始シタルモノナル處交渉ノ経過
 ハ徵スルハ我方トシテハ本件ノ円満解決ヲ希望スルノ
 余リアハユル困難ヲ排シ譲歩ニ譲歩ヲ重不來リタル
 拘ラス先方ニ於テハ我希望ニ対シ好意的考慮ノ精神ヲ
 示サレタルニ止リ實質的ニ譲歩セラレタルモノ極メテ
 少ク移民渡航数ノ如キハ今回ノ提案ハ昨年八月ノ案川
 比シ譲歩ニアラスシテ逆行ナリ今ヤ交渉ノ最後ニ至リ
 我方ニ於テ最モ難シタル提案ヲ強フルハ我政府トン
 テ甚夕遺憾トスル処ニシテ先方ニ於テ我方ノ立場ヲ相
 互の譲歩ノ精神ヲ以テ考察アル様希望スルコト
 (ロ)我方カ本邦人ノ加奈陀渡航ニ付其渡航数以外ニ関シテ
 ハ殆ト一切ノ「コハムロール」ヲ加奈陀側ニ委シタル
 ハ難キヲ忍ヒテ為シタル非常ノ譲歩ニシテ現行協約川
 ヒシ事態トシテハ格段ノ変化ヲ生スベク此点ハ先方川
 於テ篤ト考量アリタキコト
 (ハ)先方ニ於テハ若シ分配自由ツベル場合多數婦人ノ渡航
 ハ恐レ居ルカ如キモ右ハ杞憂ニ過キス移民渡航ノ現状
 ハ照スモ女性ニシテ半数以上ヲ著シク超過スル如キコ

ト事實上之ヲ予期シ難ク又我政府トシテモ多數ノ女性

ヲ渡航セシメ先方ノ迷惑トナル事態ヲ惹起スルコトヲ

全然考慮シ居ラス我方カ右分配自由ヲ主張スルハ寧ロ

体面上ノ問題トシテナルコト

(二) 日加間ノ公使交換ノ提議ニ付テモ我方ニ於テハ夙ニ之ヲ容認シ先般ノ特別議会ニ於テモ公使館設立予算ハ何等ノ異論モナクシテ通過シ目下我政府ノ関スル限右実

行ヲ進ムル為考量中ノ次第ニモアリ此際両国國交ノ増進上ヨリスルモ余リニ我國家ノ体面ヲ害スルカ如キ制

限ヲ加ヘテ此際両国間ニ惡印象ヲ残スハ大局上甚夕面白カラサルコト

一、然レトモ若シ先方ニ於テ如何ニシテモ右我方第三案ニ同意セス貴電第三四号ノ如キ取返ノ付カヌ事態トナルハ可成之ヲ避クルコト致シタキニ付万不得已場合ハ先方提案中ノ(イ)総数百五十、制限時期撤廃、女性七十五ヲ超エサルヘキ案ニ同意シ本件交渉ヲ終了スルノ外ナシト存ス

三、尚時日切迫ノ際ナルニ付前記訓令ノ範囲内ナラハ改メテ請訓スルコトナク貴官限リニテ可然御措置相成リ差支白カラサルコト

128 昭和3年5月28日 在オタワ富井總領事より
田中外務大臣宛（電報）

日本系漁民勝訴のカナダ最高裁判決について

オタワ 5月28日後発
本 省 5月29日後着

第三九号

在晩香坡領事發貴大臣宛電報一一号ニ閑シ

(一) 領大審院ハ本二十八日多數ヲ以テ（七名ノ判事中四名）

「漁業法第十四条第三項、第十五条第一項a及b、第二

十四条第七項aニ関シ右諸条項ノ正当ナル解釈上法律上

ノ無資格者ヲ除ク凡テノ英國臣民ハ適法ノ願書ヲ提出シ規定ノ手数料ヲ納付スルニ於テハ『ライセンス』ヲ取得スルノ権利アリ」トノ意見（judgement）ヲ下セり

(二) 右大審院「ジャッジメント」ニ関シ「ニューカム」弁護士ハ「法律上ノ無資格者」トハ犯罪ヲ犯シタル者ヲ指称スル處凡テ英國臣民ハ右「ジャッジメント」記載ノ条件

サ工具備スルニ於テハ「ライセンス」ヲ取得スルノ権利アルヘク從テ領官憲ハ漁業經營者ニ対シ一定比率以上ノ白土人ノ使用ヲ「ライセンス」下付ノ条件トスル權限無

ナシ

在晩香坡領事及在英大使ヘ転電アリタシ

~~~~~

127 昭和3年5月27日 在オタワ富井總領事宛（電報）

### 日本人移民数の自主規制に関するわが方通告文について

本 省 5月27日後発

第二三号（至急）

貴電第三八号ニ閑シ

先方ニ於テ百五十人分配自由ノ原則ヲ認メタル上ハ女性入國ニ関スル貴官ト首相トノ諒解ニハ異議ナキニ付別個ノ覚書ニ依リ confirm サレテ差支ナシ但シ右覚書ノ文章其ノ儘ヲ發表ナキ様希望ス尚貴電第三六号移植民大臣ニ対スル吾方通告文ハ別電第二三号ノ通改訂ノ上提出アリタク其ノ内本協定ノ効力發生時期ハ今日迄ノ交換覚書ニ依リ明白ナルノミナラス前回太田總領事ヨリノ通告文中ニモ記載ナキニ付今回モ是ヲ省略スルコト致シタシ

129 昭和3年5月28日 在ヴァンクーバー福間領事より  
田中外務大臣宛（電報）

キ趣語レリ

尙前記「ジャッジメント」ニ対スル領政府筋ノ見解ハ追テ本官当局ニ面談ノ上電報スヘシ

晩香坡ヘ転電セリ

日本系漁民の勝訴とカナダ側の英本国枢密院への上告

付 記

昭和三年五月二十八日付在ヴァンクーバー福

間領事より在英國佐分利臨時代理大使宛機密

英國枢密院での審理につき協力方依頼

第一一號  
ヴァンクーバー 5月28日後発  
本 省 5月29日後着

第一九号

往電一一号ニ閑シ

本件審理ノ内容ニ閑シテハ今日迄何等はラ窺知スルノ手懸リナカリシカ本二十八日判決言渡アリタリ是ニ依レハ訴訟

目的中漁業法「セクション」七a及一八ニ依ル領政府漁業

大臣ノ鑑札下付ノ権限（一月三日付拙信機密等四〇号付属

「ファクタム」二頁）ニ関シテハ關係判事全員一致ノ意見

ヲ以テ右漁業法ノ規定ヲ ultra vires ト決定即チ全然我方

漁者側ノ勝利ニ帰セリ又日系漁者漁業鑑札制限ニ関スル前

記大臣ノ権限（前頭「ファクタム」第十二頁）ニ関シテハ

關係判事七名中四名ノ多数意見ヲ以テB・C州在住英國民

ハ帰化人タルト否トヲ問ハス法定ノ手続ニ依リ漁業鑑札ヲ

受クルノ権利ヲ有シ漁業大臣ハ本件漁業鑑札ノ拒否ニ関シ

裁量ノ權能ナキモノト決定是亦我方漁者ニ有利ナル判決ヲ

見タル次第ナルカ右判決ニ対シ領政府ハ英國枢密院ニ上告

スヘシト予想セラル委細郵報スヘキモ不取敢

在英大使ヘハ別途電報ス

「オタワ」ヘ転電セリ

（付記）  
機密第一一號

昭和三年五月三十日

在晚香坡

領事 福間 豊吉

在英代理大使 佐分利 貞男殿

加奈陀B・C州漁業問題ニ関スル領大審院判決ノ件

本件判決言渡ニ關シテハ一昨一十八日發拙電第二九号ヲ以

テ不取敢申進置キタルトコロ本件訴訟（嚴格ニ言ヘハ領政

府ヨリ領大審院ヘノ「リフェレンス」ノ目的ハ別紙省略甲号

ノ通りニシテ之ニ對スル領大審院判決（「デシジョン」）ノ

内容ハ別紙省略乙号ノ通リナルニ付右御承知相成度又大正十五

年四月十六日付拙信機密第一号（外務大臣宛機密第九三

号）付属E号ノ四漁業法及漁業規則ハ其ノ後改変セラレタ

ル点アルニ付最近ノ分別添丙号ノ通り一部送付ス

尚本件判決ニ對シ領政府ニ於テ果シテ英國枢密院ニ上告ス

ルコトニ決定ノ上ハ弁護士ノ選定其ノ他訴訟準備ニ關シ自

然貴館ノ御配慮ヲ煩ハスコトト可相成ニ付右予メ御含置相

成度ク尤モ弁護士ニ就テハ本件漁業問題ニ關シ曩ニ其ノ意

見ヲ呈シタル「サー・ジョン・サイモン」ノ如キハ適當候補

者ノ一人カト被思考モ同氏ハ印度委員会事務等ノ為到底當

方ノ依頼ニ應シ難キヤニ被察トコロ果シテ然リヤ若シ然リ

トセハ同氏ト共同意見書（前頭拙信機密第一号付属E号ノ

ルカ其ノ結果左ノ通電報ス

(一)五月十四日提出ノ我方覺書第一章及第二章列記ノ諸点  
(從來了解成リタル諸点)ニ付既ニ兩国政府間ニ了解成

リタル事ヲ確カメ更ニ日本ハ百五十人案ニ同意シ右ト同時ニ加奈陀ハ前記覺書第三章（非移民店販ノ滯在期間延長ニ關スル点）ノ日本提案ヲ容レタル旨ヲ簡単ニ記載セ

ル覺書ヲ作成シ右二十八日先方ヘ提出シ置キタルカ二十

九日先方ヨリ書面ヲ以テ二十八日ノ我方覺書ノ諸事項ヲ

確認スルト同時ニ本年九月一日ヨリ百五十人制限実施ニ

至ル旨申越セリ

(二)更ニ我方別ノ覺書ヲ作成シ其ノ第一章ニ於テ日本ハ百五

十人中女性ノ割合数ヲ明示セル加奈陀案ニ同意シ難キモ

其ノ趣旨ニハ充分ノ考慮ヲ加フヘシ元来我政府ハ多數

(a very large proportion)ノ女性ニ旅券ヲ發給シ為ニ

加奈陀政府ノ迷惑トナル事件ヲ惹起セシムルノ意毫モ無

キ旨記載シ第二章ニ於テ之ヲ敷衍説明シ女性ハ年ニ依リ

七十五人ヲ超ユル事モ超ヘサル事モアルヘキ處七十五人

ヲ超ユル場合ニ於テモ之ヲ多数 (considerable number) ニ超過スルコト無カルヘキ旨述ヘ第二章ノ点ハ両

130 昭和三年五月三十日 在オタワ富井總領事より

田中外務大臣宛（電報）

改訂交渉の妥結および実施期日について

オタワ 5月31日後発  
本省 6月2日前着

第四二号  
往電第三八号ニ関シ

其ノ後累次御電訓アリタル趣旨ニ從ヒ加奈陀側ト折衝シタ

国政府間極秘ノ了解トスル記載シ右覚書「十九日提出シタルカ同日先方ヨリ覺書ヲ以テ加奈陀政府ハ日本政府カ女性入國数ヲ指示セル加奈陀案ノ趣旨ニ留意スシト述ヘラレタルニ鑑ミ婦人ノ入國制限数ヲ七十五人トスル要求ヲ撤回スル旨申越アリタリ

(三)二十九日貴電第一二三号ノ通告文ヲ移殖民大臣ニ手交シ同日更ニ貴電第二四号ヲ以テ御来示ノ通右書面写ヲ首相宛提出シ置キタルカ同日外務次官ヨリ首相ノ命ニ基クモノ

トシ我方通告文ヲ接手シタル旨申越アリタリ

尚移殖民大臣ヨリハ今一日「アクナレシメント」ヲ送付シ来ル筈ナリ

(四)先方ハ両国政府間ニ成立セル了解中纏ニ発表ニ合意アリタル点ハ在本邦加奈陀公使館設置ニ関スル予算案討議

(右討議ハ保守党首領ノ都合ニ依リ延期セラレ六月二一日後トナレリ尚議会閉会ハ六月第一週中ノ見込)ノ際領下院ニ於テ発表シタキ旨申出タルニ付本官ハ本件解決ハ主

トシテ我方自發的好意ニ依リタルモノナルニ付協約等ノ言葉ヲ用フルハ避ケラレタク又通告文其ノ儘ヲ発表セサルコムヲ希望スル眞尚又議員ヨリ質問アリタル際ハ本電

created in Western Canada by economic competition of Japanese immigrants.

Japanese Minister for Foreign Affairs has informed us through Consul General of Japan at Ottawa that the Government of Japan does not contemplate that total number of emigrants to Canada including agricultural

labourers and domestic servants and wives children of Japanese emigrants resident in Canada will exceed total of 150 annually. We further been informed that steps will be taken to terminate practice sending for so-called "picture brides". Administrative measures directed to this end will go into force September 1st. Canadian

Government has indicated to the Government of Japan that hereafter in case of immigration from Japan as from other countries Immigration Act and procedure including provisions for viseing of passports and preinvestigation of applications will be administered by Canadian officials.

報(二)我方覚書第一章ノ趣旨ヲ發表サレ差支無キ回答ヘ置キタル處先方ヨリ我方申出ノ通取計フヘキ直回答アリタリ其ノ後外務次官ノ内示セル發表文草案ヲ一読セル処制限実施期ヲ九月一日ト指示セル外ハ大体我方希望ノ通記載シアリタルニ付満足ノ意ヲ表シ置キタリ

在英大使、晚香坡領事ニ転電セリ

~~~~~

131 昭和3年6月9日 在オタワ富井總領事より
田中外務大臣宛 (電報)

ルミュー協定改訂妥結によるキング首相の議会

声明

オタワ 6月9日後発
本省 6月10日前着

第四九号

八日議会ニ於ケル「キング」首相ノ「ステイトメント」全文左ノ通

I am pleased to be able to inform the House that the following conferences with Japanese Government in which Canadian Government made clear difficulties

132 昭和3年6月13日 田中外務大臣より
在オタワ富井總領事宛 (電報)

新取極め実施までの再渡航者の手続には特例を認めるよう諒解取付け方訓令

本省 6月13日後発
第1)八号

貴電第四11号(閣)

(一)我方通告ノ結果右通告ニ依ル制限並之ニ伴フ彼我ノ諒解ハ本年九月一日以後旅券ノ發給ヲ受ケタルモノニ付実施セラルル次第ナル處右諒解ニ依レハ再渡航ノ場合及農業労働者並家内使用人呼寄ノ場合(妻子ニ付テハ本電後段参照アリタシ)ニハ日本領事ノ証明書ヲ添付シテ再渡航又ハ呼寄願ヲ加奈陀移民官ニ提出スベキコトナリ居ルヲ以テ此種渡航者ニシテ九月一日以後發給ノ旅券ニ依リ渡航セントスルモノハ總テ前記手続ヲ経タルモノタルヲ要シ其結果九月一日ニ至ル三ヶ月ノ過渡期間内ニ再渡航又ハ呼寄手続ヲナスモ旅券ノ發給カ九月一日以後トナル虞アル場合ニハ其手続ハ今回ノ新手続ニ依ラナル可ラサル次第ナリ此点ニ付テハ不取敢在晚香坡領事ニ対シ晚香

坡宛往電第一二号ノ通訓令シ置タルモ此等諒解ヲ普ク在留邦人ニ周知セシムルニハ相當時日ヲ要スル儀ナルニ付九月一日以後ノ旅券受給者中右手続未済ノモノヲ生スヘキハ自然ノ數ナルヘク然ルニ若シ加奈陀官憲ニ於テ此点ニ付嚴重ナル解釈ヲナシ右手続未了者ノ入国ヲ拒絶スルカ如キコトアリテハ過渡期ノ措置トシテハ酷ニ過クル嫌アリト思考セラル就テハ右手続ニ閑スル限り幾分ノ猶予期間ヲ認メシムルコトト致度ク例へハ九月三十日迄ノ發給旅券所持者ニ対シテ仮令加奈陀ニ於ケル前記手続ヲ経居ラサルモ新協定ノ範圍内ノモノナル限り上陸ヲ認メラル様子メ諒解取付方可然御交渉アリタシ

(二) 貴官作成ノ五月十四日付我方覚書第六項中ニハ「農業労働者家内使用人並加奈陀居住日本移民ノ妻子ノ入国願云々」ト明記アル処從來彼我ノ諒解ニ依レハ加奈陀官憲ニ願書ヲ提出シ從テ其前審査ヲ受クルハ農業労働者及家内使用人ニ限ルモノニシテ妻子ニ付テハ其要ナキモノト思考セラレ(客年松永總領事發大臣宛電報第一九号加奈陀側「エイド・メモア」(四a参照)從テ貴電第一九号先方覚書五c記載ノ「日本声明中特記シアルモノ」トハ

キハ自然ノ數ナルヘク然ルニ若シ加奈陀官憲ニ於テ此点ニ付嚴重ナル解釈ヲナシ右手続未了者ノ入国ヲ拒絶スルカ如キコトアリテハ過渡期ノ措置トシテハ酷ニ過クル嫌アリト思考セラル就テハ右手続ニ閑スル限り幾分ノ猶予期間ヲ認メシムルコトト致度ク例へハ九月三十日迄ノ發給旅券所持者ニ対シテ仮令加奈陀ニ於ケル前記手続ヲ経居ラサルモ新協定ノ範圍内ノモノナル限り上陸ヲ認メラル様子メ諒解取付方可然御交渉アリタシ

農業労働者及家内使用人ノミヲ意味シタルモノト解スヘキモノト存ス就テハ為念此点誤解ナキ様先方ノ諒解ヲ取付置カレタシ

晚香坡ニ転電シ在英大使ヘ暗送アリタシ

人側ニ及ホシタル反響ヲ見ルニ當市及「ヴィクトリア」市各英字新聞ハ何レモ「日本写婚婦人ノ渡航禁止」ノ題下ニ簡単ニ首相公表ノ趣旨ヲ報道シタルニ止マリ別ニ之ニ対シ評論ヲ試ミタルモノナカリシカ本月十三日「ヴィクトリア・タイムズ」紙及同十四日晚香坡「プロヴィンス」紙ハB・C州檢事総長「マンソン」氏カ日本移民入国ニ対スル新制限ハ東洋人問題ノ完全ナル解決ニアラサルモ正シキ方向ニ於ケル顯著ナル一進歩ニシテ右ハ昨秋開催セラレタル領内各州首相會議ニ於テ「マックリーン」首相及同氏カ強硬ニ東洋人問題處理ノ必要ヲ主張シ置キタル最初ノ収獲ニシテ領議會議員「ニイル」及「キング」(キンギング)首相ニアラス)両氏ノ与ツテ力アル所ナルカB・C州ハ今後モ引続キ本問題ニ関シ東部諸州ヲ啓発セサル可ラスト述ヘタル旨ヲ報シ且ツ新制限ニ依ル日本人入國減少数等ニ閑シ記述スル所アリタリ左記新聞切抜別紙ノ通相添ヘ右御参考迄報告ス

編注 本公信には次のような「埴原メモ」がある。

「ルミニュ」協約改訂ハ予想セル如ク当方ノ敗北加奈陀政府ノ大勝利

133 昭和3年6月15日 在ヴァンクーバー福間領事より
田中外務大臣宛
機密公第一八八号
ルミニュ協定改訂に関するB・C州各紙の反響
(7月2日接受)

昭和三年六月十五日 在晚香坡
領事 福間 豊吉(印)
外務大臣男爵 田中 義一殿
「ルミニュ」協約改訂ノ晚香坡方面ニ対スル
反響ニ閑スル件
「ルミニュ」協約今次ノ改訂ニ閑スル「キング」領首相ノ議会ニ於ケル公表ニ伴フ在留邦人ノ態度ニ閑シテハ六月十一日拙電第三二号ノ次第アリタルトコロ今之カ当地方面白

ノ手続ニ依ル様致シタキ旨申出テタルニ同次官ハ新制限

数百五十人ハ九月一日ヨリ実施スルモ手続ノ関スル限り

申出ニ異存ナキ旨答ヘタリ尚本官申出ニ付テハ先方ヨリ

手続決定ノ通告アリ次第文書ヲ以テ了解ヲ付ケ置ク可シ

(二)⁽²⁾ 貴電二一八号(二)ニ閲シ先方ハ覚書ノ字句ヲ離レ実質的ニ本

件ヲ考察シタキ旨前置キシ妻子呼寄セノ資格者ハ正当ニ

入国シタル在留者ニ限ル處右資格ヲ最モ正確ニ調査シ得

ル者ハ加奈陀官憲ヲ措イテ他ニナク尙前記調査ハ出願ノ

時ヲ以テ最モ適當トル旨述ヘタルニ付本官ハ右加奈陀

側ノ見解ハ日本政府ニ伝達スヘシト述ヘ置キタリ

(三)右(二)ニ閲シテハ先ニ我方ニ於テ往電第一九号(五)(b)ノ声明

ニ異存ナシトシ又妻子呼寄セノ資格者ヲ正当に入国在留者

ニ限局スルコトニ同意シタル關係モアリ旁加奈陀側ニ於

テ歐州大陸ヨリノ移民ニ対シ其ノ妻子呼寄セニ前審査ヲ

実施シ居ル次第モアルニ付我方ヨリ特ニ妻子ノ呼寄セニ

限り加奈陀側前審査ノ省略ヲ要求スルハ不正入國者ヲ覆

フカ如キ感想ヲ与ヘ新取極実施ニ対スル我方ノ誠意ヲ疑

ハルル虞アルヘキヲ以テ本件我方要求ハ之ヲ撤回スルコ

ト然ルヘキニアラスヤト愚考セラル何分ノ儀御回示ヲ請

フ

晩香坡へ転電セリ

135 昭和3年7月3日 田中外務大臣より

在オタワ富井總領事宛(電報)

妻子呼寄願書の提出その他のわが方要求提出

は撤回して差支えない訓令

本省 7月3日発

第三二二号

貴電第五六号及第五七号ニ閲シ

一、日本領事証明書ノ形式内容ハ福間領事ノ希望及加奈陀

側ノ行ハントスル前審査事項等ヲ考量シ且ツ先方トモ協議ノ上貴官ニ於テ可然御決定アリタシ

二、妻子呼寄願書ノ提出並之カ前審査ニ閲シテハ加奈陀側ニ於テ歐州移民ノ妻子呼寄ニモ同様ノ取扱ヲナシ居ルモノトスレハ我方ノ要求ハ之ヲ撤回シテ差支ナシ

在晩香坡領事へ転電アリタシ

136 昭和4年10月18日 在ヴァンクーバー福間領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英國枢密院における日系漁民の勝訴判決について

付記 カナダ漁業訴訟の経緯

ヴァンクーバー 10月18日後発
本省 10月19日後着

第五六号 在英大使発本官宛電報第一五号

貴電第一四号ニ閲シ

十五日枢密院ニ於テ判決アリタル漁業訴訟ノ判決文ハ長文ノモノナルモ其ノ結論ニ

In the result, therefore, the appeal admits and should be dismissed, and their Lordships will humbly advise His Majesty accordingly.

In accordance with the usual practice there will be no costs of the appeal as between the appellant and the Respondent-Attorneys-General, but the respondent fishermen will have their costs of the appeal.

会ニ於ケル本件弁論ハ最初同年十一月頃行ハルル予定期ナ
リシカ其後訴訟当事者双方ノ都合ニ依リ屢々延期セラレ
今日ノ所大件本年七月一日頃トナル苦ニテ本邦漁者側ニ
於テハ目下其代表者ノ英國派遣方準備中ナリ

一、然ルニ從来本件ニ要スル訴訟費用ハ専ラ本邦人漁者間
ノ醸金ニ依リ來リタルモ本訴訟ハ其提起以來既ニ二ヶ年
以上ヲ経過シ訴訟費用ノ積立金モ残リ少ク今回ノ英國ヘ
ノ代表者派遣費ニモ不足ヲ來シ居ル状態ナルカ而モ本邦

漁者ノ資力及本訴訟事務ニ対スル我方当事者間ノ異見反

目等込入りタル事情アル等ノ関係上コノ上本訴訟費用ヲ

本邦漁者側ヨリ醸金セシムルコト到底因難ナル状態ナリ

ヲ含ミ約四千五百人在り在B・C州本邦人全人口ノ約四

分ノ一ヲ占メ居ル処本件訴訟ノ勝敗ハ此等多数邦人ノ死

活問題ニシテ殊ニ來ルヘキ司法委員会ノ判決ハ最終審ニ

シテ若シ同委員会ニ於テ敗訴ノ判決ヲ受クルニ於テハ最

早救済ノ途無ク切角金銭上其他多大ノ犠牲ヲ払ヒテ得タ

ル前記領大審院ノ判決ハ結局無益トナルヘク甚々遺憾ナ

リ就テハ此際外務省ヨリ幾分本件訴訟費ヲ補助シ所期ノ

ヲ為セリ

演説二閥シ報告ノ件

領首相「マッケンジイ・キング」氏ノ西部加奈陀遊説ノ予定ニ閑シテハ去九月二十日付拙信機密公第二三〇号中ニ一言シ置キタルトコロ同氏ハ最近當州各地ヲ巡歷遊説シ当地ニ於テハ本月十五日夜一般公衆ニ対シ政談演説ヲ為シタル外同十四日商業會議所主催ノ歓迎晩餐会ニ臨ミ一場ノ演説ヲ為セリ

右歓迎晩餐会ニハ本官ハ他用ノ為乍遺憾出席出来サリシモ

岩永副領事代テ出席シタルカ同夜首相ノ演説ハ Canada's External Relations ノ題下ニ約時余ニ及ヒ其ノ要旨ハ大体別添^(省略)ノ如キモノナルモ之以外ニモ当夜出席ノ岩永自ラ

聞取り置タル個所モ有之是等資料ニ基キ概要ヲ申述ヘムニ首相ハ先ツ加奈陀カ英本国及仏國ニ政府代表者ヲ送リ漸次涉外事項增加シテ之為新タニ一省ヲ設クルニ至リシ歴史ヨリ説キ起シ英帝国内及國際關係上加奈陀ノ地位向上ノ過程ヲ語リ併テ現在ニ於テハ加奈陀總督ハ直接英國皇帝ヲ代表シ往時ノ如ク英國政府ヲ代表スルモノニ非サルコトヲ教へ

論テ英帝国ナル大世帯ヲ維持スルニハ飽迄皇帝ヲ存シテ經

米、

目的ヲ達成セシムルコト可然ト思考ス

一、尚河相謀長晚香坡在勤當時同領事及石射通商三課長ハ本件訴訟ニ付テハ外務省ヨリ多少ノ補助ヲ与フル要アリト認メラルモ本訴訟ハ相當永引ク模様ナルヲ以テ早キ

ニ当ツテ右補助ヲナスコトハ本邦漁者側ニ依頼心ヲ起サシムル恐アリ面白カラサルニ付最後ノ場合迄之ヲ差控フトコト可然トノ意見ナリシ趣ナリ而シテ今日ハ其最後ノ場合ト思考セラル

137 昭和4年11月22日 在ヴァンクーバー福間領事より
幣原外務大臣宛

移民協定改訂に満足の意を表明するキング首相
の演説について

機密公第二七八号

昭和四年十一月二十二日

在晚香坡

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
「マッケンジイ・キング」領首相ノ晚香坡ニ於ケル

領事 福間 豊吉

本信写送付先 在加公使

~~~~~

138

昭和5年9月19日

(幣原外務大臣より)  
在カナダ徳川(家正)公使宛(電報)

## 移民協定の実施手続きの合意について

## 付記

昭和五年五月二七日付幣原外務大臣より在カナダ徳川公使宛通三機密第一九号  
移民協定実施手続きに関するマーラー在本邦  
カナダ公使との交渉について

本省 9月19日 発

第二四号

日加間移民取極ノ実施手続ニ付テハ其ノ後引続キ協議中ナリシカ最近遂ニ決定ヲ見在本邦加奈陀公使トノ間ニ交換ヲ了セリ内容ハ移民年度ノ開始期ヲ四月一日変更シタル外大体五月二十七日付通ニ機密第一九号付属加奈陀公使來信ノ通リ委細郵報ス

在晚香坡領事ニ転電アリタシ

## (付記)

日加間移民取極ノ実施手続協議ニ閲スル件

本件ニ閲シ曩ニ「マーラー」公使ヨリ客年十一月三十日付

ヲ求メ来レリ右ニ依レハ從來我方ヨリ申入レタル諸点ハ殆ト全部之ヲ容認シ居リ一、二疑問ノ点ヲ除キテハ大体之ヲ承認シ差支ナシト認メラレタルヲ以テ其旨本月十三日付別紙戊号写(省略)ノ通回答シ置キタリ就テハ委細別紙各号写ニ就キ御承知相成度此段通報申進ス

追テ本件ニ閲連シ客年十一月三十日付普通第四八号ヲ以テ

申進置キタル加奈陀行再渡航者ノ出生証明書紛失者ニ閲ス

ル件ニ閲シテハ前頭別紙丙号写第六項ニ於我方希望ヲ申

入レ置キタルニ対シ別紙丁号写今回ノ先方來信ニハ此点ニ付何等其意向ヲ開示シ居ラサルモ右ハ元來本件ニ直接關係ナキ事項ニモアリ旁々之ニ閲シ更ニ申入ルルコトヲ差控ヘタル處右ニ閲シ貴方ニ於テ貴地當局ト何等話合ノ次第モアラハ御回報相成度右申添フ

本信寫送付先 在晚香坡福間領事

公文ヲ以テ本国政府トノ照覆ノ結果ニ付申越有之タル次第ハ往電第一号及本年一月十五日付機密第五号ヲ以テ申進置キタル處右公文ニ於テハ本件協議事項全部ヲ包含シ居ラサルモ其申越ノ閥スル限り特ニ異議ヲ唱フヘキ点無之只加奈陀公使館ニ於テ許与スル查証數ヲ一年間百五十二限定スルコトハ我國外國旅券規則第八条ノ関係上實際ノ事態ニ適合セスト認メラレタルニ依リ其旨本年二月三日付ヲ以テ別紙甲号写ノ通申入レ尚右公文中記述ナキ事項ニ付テモ速ニ何分ノ義回示方期待スル旨付言シ置キタリ

右ニ対シ同公使ハ不敢右旅券查証數ノ限定ニ閑シ當方申入ヲ尤ト思考スルニ付其旨直ニ本国政府ニ申達スレキ旨別紙乙号写(省略)ノ通り申越シタルカ其後本件ニ閑シテハ在晚香坡福間領事ヨリ本邦移民殊ニ再渡航者ニ対スル旅券查証出願手続、日本滞在中妻子同伴出願手続等ニ付裏申越ノ次第アリタルヲ以テ重ネテ此等ノ点其他當方氣付ノ点ト共ニ別紙丙号写(省略)ノ通ニツ書トシテ先方ニ提示シ其好意的考慮ヲ求メ置キタル處今般「マーラー」公使ヨリ別紙丁号写(省略)ノ通本件実施手續ニ閲スル從來ノ彼我協議ノ結果ニ付同公使ノ諒解スル處ナリトシテ之ヲ一括記述シ之ニ対スル我方ノ確認方